広島大学留学生センターの活動報告

日本語・日本事情
(1997年4月～1998年3月)

田村泰男
(広島大学留学生センター・講師)

1．授業科目一覧

授業時間	開単位設数	学期別週授業時数			備考
		前期	後期	通年	
◎ 日本語初級 I	1	2	2		広島大学外国人留学生のための授業である。日本語初級Ⅰから日本語中級Ⅲまでは通年の授業ではない。◎印の授業は東広島、霞の両地区で開講。
◎ 日本語初級 II	1	2	2		
日本語初級 III	1	2	2		
日本語初級 IV	1	2	2		
日本語初級 V	1	2	2		
◎ 日本語中級 I	1	2	2		
◎ 日本語中級 II	1	2	2		
日本語中級 III	1	2	2		
日本語中級 IV	2	2	2		
日本語中級 V	2	2	2		
日本語中級 VI	2	2	2		
日本語中級 VII	2	2	2		
日本語中級 VIII	2	2	2		
日本語中級 IX	2	2	2		
日本語上級 I	2	2	2		
日本語上級 II	2	2	2		
日本語上級 III	2	2	2		
日本語上級 IV	2	2	2		
日本語上級 V	2	2	2		
日本語上級 VI	2	2	2		
日本語上級 VII	2	2	2		
日本事情 I	2	2	2		
日本事情 II	2	2	2		
日本事情 III	2	2	2		
日本事情 IV	2	2	2		
日本事情 V	2	2	2		
日本事情 VI	2	2	2		
日本事情 VII	2	2	2		

2．授業内容

(1) 東広島キャンパス (Higashihiroshima Campus)

日本語初級 (Elementary Japanese)

授業科目 Course Title	日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ Elementary Japanese Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
担当教官 Professor	深見兼孝・中川正弘・下村真理子・渡部浩見・迫田久美子 K.Fukami・M.Nakagawa・M.Shimomura・H.Watanabe・K.Sakoda
目　標 Aim	かな及び初歩的な文法、簡単な漢字の読み方を習得させる。 Teach Kana, basic grammar, and simple Kanji readings.
内　容 Contents	初歩的な文法事項、語彙の口頭及び筆記による練習。 Practice of basic grammar, oral and written vocabulary.
テキスト Text	日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ　コンパクトジャパニーズ1 Elementary Japanese Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ　Compact Japanese 1 日本語初級Ⅳ　テープ教材（日本語初歩） Elementary Japanese Ⅳ　tape(Nihongoshoho)

日本語中級 (Intermediate Japanese)

授業科目 Course Title	日本語中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ Intermediate Japanese Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
担当教官 Professor	浮田三郎・堀田泰司・渡辺久美 S.Ukida・T.Hotta・K.Watanabe
目　標 Aim	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。 Consolidate the basic vocabulary, structures and expressions studied at elementary classes. Enrich the amount of vocabulary and the power of expressions. Teach practical Japanese in various real situations.
内　容 Contents	短文を中心に構成され、会話を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。 Use daily life materials mainly composed of short passages and learn appropriate expressions in different situations. It also aims to teach more natural Japanese by applying old and new vocabulary, structures and expressions in oral and written exercises.
テキスト Text	コンパクトジャパニーズ2 Compact Japanese 2

授業科目 Course Title	日本語中級IV・V Intermediate Japanese IV・V
担当教官 Professor	下村真理子・山中康子 M.Shimomura ・ Y.Yamanaka
目　　標 Aim	中級レベル前半の学習を終えた学生を対象とし、主に読解力を身に付けることを目的とする。 Increase the power of reading comprehension for students who have completed the first part of Intermediate Japanese.
内　　容 Contents	教科書に沿って、毎回一つのテーマを中心に読解、文章表現の練習をする。併せて、漢字、文章の書き取り、短い作文の練習など、学生の日常生活に役立つ文章語の表現能力を養う。 Concentrate on a theme in a textbook each time and practice different types of expressions. Develop the power of expression in written language, which is useful to the everyday lives of students, through dictation of Kanji and passages and through practice of short composition.
テキスト Text	日本語 2 nd ステップ

授業科目 Course Title	日本語中級VI Intermediate Japanese VI
担当教官 Professor	渡部浩見 H.Watanabe
目　　標 Aim	中級レベルの聴解力を養う。 Develop listening ability of Japanese at intermediate level.
内　　容 Contents	カセットテープを用い、毎回一つのテーマで、現代日本社会に関する説明文を聞き、その内容をどれくらい理解できているかチェックする。テープスクリプトは見ないで、耳の訓練を行う。更にその内容についての質問に簡潔に書いて答える練習も行う。 Cassette tapes about contemporary Japanese society are used. A different theme is used each time. Instructor will check how much the text is understood. Practice listening ability without reading the script. Students also need to answer simple question with regard to the contents of the tape.
テキスト Text	毎日の聞き取り50日上

授業科目	日本語中級VII・VIII
担当教官	田村泰男
目　　標	中級IV・Vまでに学習してきた項目について確実に運用できるようにさせるとともに、日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身に付けさせる。
内　　容	読解用の文章を読むことによって、既習の文型・語彙・表現を整理し、併せて新しい文型・語彙・表現を学習する。その際、口頭練習で定着をはかるとともに、書き言葉に属する言い回し、或いは文型を「書く」作業によって練習し、文章レベルでの理解をはかる。これらの作業の後、教材の内容理解を確認するために練習問題を使って質疑応答を行う。
テキスト	テーマ別中級から学ぶ日本語

授業科目	日本語中級IX
担当教官	中川正弘
目　　標	人に伝えたい気持ち、言葉で表したい内容を日本語で表現する能力を高める。
内　　容	「読む」「書く」など、受動的な学習に偏りやすい中級日本語学習者の日本語運用能力がどのようなものであるかを、提出させる作文によって確認し、そこに現れる間違いの分析によって、文法の理解を正すと同時に、上級日本語、さらに日本人の日本語に近づくために、日本語について文法以外にどんなことを知らねばならないかを考えていく。
テキスト	自主教材

日本語上級（Advanced Japanese）

授業科目	日本語上級 I
担当教官	深見兼孝
目　　標	時事日本語の聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	A．時事論評を聞き、その内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補足する。 さらに重要語句の使い方について練習する。 B．ニュースを聞き、 1)その内容を理解する練習を行う。 2)スクリプトの完成を行う。
テキスト	自主教材

授業科目	日本語上級II
担当教官	中川正弘
目　　標	日本語における「表現」の様々な側面を考察することで、内容や文法のレベルにとどまらず、表現行為や解釈行為まで含めた「ことば」とはどんなものであるかを理解する。
内　　容	文章練習とその徹底的な分析を柱とする。ほぼ毎週短い作文を提出してもらい、これは当然添削して返却するが、添削では到底表すことができない日本語という言葉の問題、誤用の分析、また言葉の「選び」などに現れる日本文化、日本社会の考察を通して、外国人の日本語と日本人の日本語を隔てているものが何であるか検討してゆく。
テキスト	自主教材

授業科目	日本語上級III
担当教官	多和田眞一郎
目　　標	日本人のものの見方・考え方について理解を深めるとともに、それを題材とする討論により（日本語の）口頭表現能力の増進をはかる。
内　　容	「オモテとウラ」「ウチとソト」「ホンネとタテマエ」などの日本人のものの見方・考え方、行動様式に関して記述された文章を読む。また、「文化」をいかに捉え、理解すべきかについても考察を加える。
テキスト	自主教材

授業科目	日本語上級IV
担当教官	田村泰男
目　　標	慣用句を中心とした語彙や上級文法を習得させることによって日本語の読解力・文章表現力を養わせる。併せて言語表現の背後にある日本の文化や社会現象についての知識を身に付けさせる。
内　　容	主として新聞の「経済」「社会」「文化」面から、日本の実社会を反映している題材や身近な題材をとり、それに漢字の読み書き・慣用句・文法などを問題として加えて編集したものをテキストとして用いる。授業では、先ず、「読める」ことを第一の目標とし、次に個々の文章の意味が正確に理解できるように語彙の意味、表現を整理していく。これらの作業の後、題材についての説明を行い、クラスでその内容についての討論を行う。
テキスト	自主教材

授業科目	日本語上級V
担当教官	鴨瀬昌幸
目　　標	コンピュータの基本的な取扱方法、タイピングを習得すると共に、コンピュータ上で日本語の文書を作成する能力を身に付ける。余裕があれば、他言語混在文書の作成、日本語データ処理にも触れたい。
内　　容	1.コンピュータの基本的な取扱方法 2.タイピング 3.ソフトウェアの基本操作 4.日本語の入力 1)入力方法　2)ひらがな・カタカナ　3)漢字の変換と選択 4)記号　5)他言語の文字 5.文書作成実習
テキスト	自主教材

授業科目	日本語上級VI
担当教官	橋本敬司
目　　標	聴解力、読解力および会話能力の総合的向上。
内　　容	ニュース、新聞の社説が理解できることを目的としたテキストを使用し、テープを聞いてニュースの内容が把握できるよう聴解力を養い、新聞の社説が理解できる程度の読解力を養う。更にクラスでは、聞いてわかる、読んでわかることはもちろん、わかったことをどのように表現できるか、ディスカッションしながらその会話能力も養う。
テキスト	テーマ別上級で学ぶ日本語

授業科目	日本語上級VII
担当教官	堀田泰司
目　　標	上級レベルの会話、スピーチ、討論会等の練習により、より実践的な口頭表現力の増進をはかる。
内　　容	日本人によるモデル会話、スピーチ、討論会のビデオ、テープ等による聞き取り練習と、その中でよく使われている語彙、表現の学習を踏まえ、学生自身にも様々な状況での口頭発表並びに討論の実体験をさせる。
テキスト	自主教材

日本事情（Japanese Culture）

授業科目	日本事情 I
担当教官	浮田三郎
目　　標	日本の諺を学ぶことにより(時には世界各国の諺と対照比較して)、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土を学習する。各々の諺がもっているテーマやそこで使用されている素材を考える。諺の表現の特徴やおもしろさを考える。簡単なクイズ形式の設問を用いて考えてみる機会を与える。各々の諺について、留学生達の意見、対照比較できるような自国の諺や表現とその考え方を発表してもらい、意見の交換をする。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情II
担当教官	西川節行
目　　標	留学生が日本を理解するために必要な知識の習得。それは、また、日本での生活適応、異文化適応の知識の習得でもある。日本に関する基本的な知識の学習とともに、中心を現代日本の社会の仕組みの考察におく。更に地域理解のため、広島県及び東広島市への理解を深める。
内　　容	1.生活適応、異文化適応……日本での生活に必要な情報の取り方など 2.基本的な知識……日本の歴史・地理・自然・文化・伝統・芸術・宗教など 3.現代の日本の社会……日本人の生活・職業・教育・福祉・食生活・趣味・余暇など 4.日本の産業、経済、経営……会社の仕組み・日本的経営・企業系列・証券市場・円高問題・日本でビジネスする方法・国際経済・企業とコンピュータなど 5.日本の行政……政治・行政・県庁、市役所の仕組みなど 6.広島理解のために……広島の歴史、地理、政治、行政、産業、文化、教育、将来ビジョンなど 7.東広島市理解のために……（同上）・見学など
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情III
担当教官	今石正人
目　　標	日本の戦後の映画を鑑賞し、時代・歴史・社会・文化について理解を深める。
内　　容	「東京物語」「家族ゲーム」「となりのトトロ」を見て日本の家族の問題を考える。「七人の侍」「タンポポ」「寅次郎夕焼け小焼け」を見て、日本の娯楽映画の特徴を考える。「心中天網島」を見て、日本の様式美について考える。質疑応答、ディスカッション形式で意見の発表・交換を行う。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情IV
担当教官	鴨瀬昌幸
目　　標	コンピュータで日本語を扱うためには、多数の問題点が克服されねばならなかった。本講では、この点を踏まえつつ、コンピュータ上の日本語処理について理解を深め、自身で日本語処理を体験する。併せて、マニュアル等に見られるコンピュータ関連の語彙の習得を目指す。
内　　容	第1章　ワードプロセッサ 1.ワードプロセッサ以前　2.ワードプロセッサの誕生 3.ワープロソフトへの進化 第2章　コンピュータ上の日本語処理入門 1.概説　2.日本語入力(1)　3.日本語入力(2) 4.データ処理　5.通信ネットワーク　6.処理実習
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情V
担当教官	高永茂
目　　標	言語文化の面から、日本の文化についての理解を深めさせる。
内　　容	1.生活の中の語彙と文化 2.言葉とジェンダー 3.言霊と思想 4.日本の伝統・説話 5.外来語と日本語の歴史 6.方言と日本語の歴史 を中心に時事問題なども取り上げる。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情VI
担当教官	橋本敬司
目　　標	現代日本社会の深層を形成する日本文化の理解と現代日本の解読。
内　　容	いじめ、自殺、脳死、過労死など現代の日本の社会及び人間の病理を読み解くために、古典の中に見られる宗教観、人生観、無常観に迫る。西行、芭蕉、近松の作品を取り上げて読み、今と昔を比較しながら意見を交換する。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情VII
担当教官	長谷川伸次
目　　標	日常生活や社会的慣行の中に息づく日本の伝統文化や社会的風土を観察・認識することで、時事問題へのより深い理解と学習を目指す。
内　　容	1.新聞、雑誌等を梃子として、日本の社会的経済的問題点を討議する。 2.日本人・日本社会の思考体系や行動様式を討議する。 3.必要に応じて公共施設や企業訪問を実施する。
テキスト	自主教材

(2) 霞キャンパス (Kasumi Campus)

日本語初級 (Elementary Japanese)

授業科目 Course Title	日本語初級 I・II Elementary Japanese I・II
担当教官 Professor	山中康子・渡部浩見 Y.Yamanaka・H.Watanabe
目　標 Aim	かな及び初歩的な文法、簡単な漢字の読み方を習得させる。 Teach Kana, basic grammar, and simple Kanji readings.
内　容 Contents	初歩的な文法事項、語彙の口頭及び筆記による練習。 Practiece of basic grammar, oral and written vocabulary.
テキスト Text	コンパクトジャパニーズ 1 Compact Japanese 1

日本語中級 (Intermediate Japanese)

授業科目 Course Title	日本語中級 I・II Intermediate Japanese I・II
担当教官 Professor	渡部浩見・内藤祐子 H.Watanabe・Y.Naitoh
目　標 Aim	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。 Consolidate the basic vocabulary, structures and expressions studied at elementary classes. Enrich the amount of vocabulary and the power of expressions. Teach practical Japanese in various real situations.
内　容 Contents	短文を中心に構成され、会議を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。 Use daily life materials mainly composed of short passages and learn appropriate expressions in different situations. It also aims to teach more natural Japanese by applying old and new vocabulary, structures and expressions in oral and written exercises.
テキスト Text	日本語中級 I－コンパクトジャパニーズ 2　　Compact Japanese 2 日本語中級 II－授業で指示　　to be announced

日本語研修コース

中川正弘
（広島大学留学生センター・助教授）

【修了者】

第二十四期（1997年4月～97年9月）（21名）

氏名	呼び名	出身国	生年	専攻	専門教育
Dharmaratne, Anuja Thimali	アニュジャ	スリランカ	1968	計算機科学	広島大学
Timotiwu, Paul Benyamin	ティモティーウ	インドネシア	1962	植物生理学	〃
Delowe, Suzanne	スージー	イスラエル	1969	日本語教育学	〃
Joe, Sun Young	ジョー	韓国	1968	日本文学	〃
Abdul Razak, Mohammad Radhi	ラディ	マレーシア	1962	経済学	〃
Agus Purwanto	プルワント	インドネシア	1964	物理学	〃
Mendoza, Ciro Nicasio	チロ	パラグアイ	1970	医学	〃
Berengena Manchado, Manuel	マニュエル	スペイン	1972	分子生命薬学	〃
Del Pozo, Rodrigo Ivan	ロドリゴ	ベネズエラ	1972	歯学	〃
Liechti, Olivier	オリビエ	スイス	1972	情報工学	〃
Adi Soeprijanto	アディ	インドネシア	1964	電気工学	〃
Masis, Julio Roberto	フリオ	コスタリカ	1971	土木建築工学	〃
El-Saied, Hosam Easa	フサム	エジプト	1966	生物学	〃
Hameed, Sheikh Rashid	ラシッド	パキスタン	1969	生物学	〃
Jackson, Richard Michael	リチャード	イギリス	1969	地理学	
Abdel-Banat, Babiker Mohamed Ahmed	バビキール	スーダン	1965	農業防疫学	山口大学
Merida, Lidia	リディア	ボリビア	1964	医学	〃
Eko Hanudin	エコ	インドネシア	1964	生物環境保全学	愛媛大学
Cruz, Andre Freire	アンデレ	ブラジル	1971	生物生産システム学	〃
Cicha, Iwona Malgorzata	イヴォナ	ポーランド	1972	医学	〃
Nimiago, Patrick	パトリック	パプアニューギニア	1967	森林資源学	〃

第二十五期（1997年10月～98年３月）（23名）

氏　　名	呼び名	出身国	生年	専　　攻	専門教育
Chonlaworn, Piyada	ピヤダ	タイ	1975	日本史学	広島大学
Houle, James Ralph	ジェイムズ	アメリカ	1968	教育学	〃
Zueva, Valentina Victorovna	ヴァレンティナ	ウクライナ	1970	日本文学	〃
Nontachaiyapoon, Sureeporn	スリポーン	タイ	1974	植物学	〃
Kohashi, Patricia Yumi	ユミ	ブラジル	1972	生物医学	〃
Pawar, Vaishali Shashikant	ヴァイシャリ	インド	1970	水産学	〃
Ahmad, Norlia	ノルリア	マレーシア	1972	経済学	山口大学
Bouchnev, Andrey Valerievich	アンドレイ	ウクライナ	1974	日本語学	〃
Khatlani, Tanvir Saleem	タンヴィール	インド	1968	生物学	〃
Rutto, Laban Kipkoriony	ルット	ケニア	1972	農林生産学	愛媛大学
Wongsue, Rattiya	ラティヤ	タイ	1967	教育学	島根大学
Kaewpet, Chamnong	チャンノン	タイ	1967	教員研修留学生	〃
Fernandez, Amy Daco	フェルナンデス	フィリピン	1967	教員研修留学生	〃
Panphunpho, Somsri	ソムシリ	タイ	1965	教員研修留学生	高知大学
Sun, Hee Jung（宣　希妊）	ソン	韓国	1967	教員研修留学生	〃
Silva, Neusely Fernandes	ネウセリ	ブラジル	1968	教員研修留学生	〃
Than Tun	タン・トゥン	ミャンマー	1967	経済学	広島大学
Darian,Ridzuan Bin	ダリアン	シンガポール	1970	美術教育	〃
Gunawan	グナワン	インドネシア	1967	日本語教育学	〃
Candari, Marivic Demaisip	マリヴィック	フィリピン	1966	化学教育	〃
Guo Peng（郭　鵬）	グオ・ペン	中国	1969	教育学	〃
Haji Awang Tengah, Haji Azmi	ハジ・アズミ	ブルネイ	1965	地理学	〃
Bravo, Jose Gregorio	ホセ	ベネズエラ	1965	教育学	〃

日本語研修コース第24期（1997年度前期）予定表

	期　　日	行事／試験等	特別研究指導	備　　考
0	4／14～4／16	4／14(月)（11：00） オリエンテーション 4／16(水)（11：00） 開講式	4／16(水) 午後 クラス・ミーティング	4／14(月)（1：00） ホストファミリー案内
1	4／17～4／18			
2	4／21～4／25		4／25(金) 広島市	4／25(金)（5：00） ホストファミリー対面会
3	4／28～5／2			4／29(火) 5／3(土)　公休日
4	5／5～5／9		5／8(木)9：30から 健康診断	5／5(月)　公休日
5	5／12～5／16	5／13(火) 第1回試験		
6	5／19～5／23		5／23(金) 宮島	
7	5／26～5／30			
8	6／2～6／6			6／5(木) 「専門用語」開始
9	6／9～6／13	6／11(水) 第2回試験		
10	6／16～6／20			
11	6／23～6／27		6／28・29（土・日） 高宮ホームステイ	
12	6／30～7／4			
13	7／7～7／11	7／10(木) 第3回試験		
14	7／14～7／18			
15	7／21～7／25		7／25(金) マツダ工場見学	7／21(月)公休日
16	7／28～7／31			
	8／1～9／4	夏　　季　　休　　業		
17	9／5			
18	9／8～9／12	9／10(木) 第4回試験		
19	9／15～9／16	特別講義		9／15(月) 公休日
00	9／17	成果発表，修了式		

日本語研修コース第25期（1997年度後期）予定表

	期　　日	行事／試験等	特別研究指導	備　　考
00	10／9	15：00 オリエンテーション		
0	10／15	1：00　開講式	午後　クラスミーティング	14：00 ホストファミリー案内
1	10／16～10／17			10／18・19（土・日） ビッグ・ジャンボリー
2	10／20～10／24			10／25(土) オリエンテーション・バスツアー
3	10／27～10／31		10／31(金) 広島	10／31(金) 16：00 ホストファミリー対面
4	11／3～11／7			11／3(月)　公休日 11／5(水)　創立記念日
5	11／10～11／14	11／11(火) 第1回試験	11／12(水) 9：30-12：00 健康診断	11／14(金)　16：00～18：00 インターナショナル・ティ・タイム
6	11／17～11／21		11／21(金) 宮島	
7	11／24～11／28			11／24(月)　公休日
8	12／1～12／5			12／4(木) 「専門用語」開始
9	12／8～12／12			
10	12／15～12／19	12／17(木) 第2回試験		
	12／22～1／7	冬　季　休　業		
11	1／8～1／9			
12	1／12～1／16			1／15(木)　公休日
13	1／19～1／23			
14	1／26～1／30	1／27(火) 第3回試験		
15	2／2～2／6		2／6(金) マツダ	
16	2／9～2／13			2／11(水)　公休日
17	2／16～2／20			
18	2／23～2／27	2／25(水) 第4回試験		
19	3／2～3／3	特別講義		
00	3／4	修了式　15：00	成果発表　13：20	

日本語研修コース関係講師一覧

第二十四期（1997年４月～97年９月）

専　任　多和田　眞一郎　浮　田　三　郎　中　川　正　弘　深　見　兼　孝
田　村　泰　男　橋　本　敬　司

非常勤　今　石　正　人　橋　　孝　司　谷　口　秀　治　廣　中　　環
松　尾　　馨　山　中　康　子

専門用語解説

総合科学部－西川節行、中越信和／**教育学部**－迫田久美子、木坂基／**経済学部**－上田良文／**医学部**－石岡伸一、杉山政則、濱田宜和、笹征史／**歯学部**－丹根一夫／**工学部**－久保川淳司、福島博／**生物生産学部**－長沼毅、藤田耕之輔、安藤忠男、河野憲治／**国際協力研究科**－松岡俊二／**理学部**－小平治郎

第二十五期（1997年10月～98年３月）

専　任　多和田　眞一郎　浮　田　三　郎　中　川　正　弘　深　見　兼　孝
田　村　泰　男　橋　本　敬　司

非常勤　今　石　正　人　橋　　孝　司　谷　口　秀　治　廣　中　　環
松　尾　　馨　山　中　康　子

専門用語解説

教育学部－バヒリオ・ウマンガイ・マンザーノ、落合洋、松尾千秋、三浦省五、相原和邦、町博光、堀田哲一郎／**経済学部**－榎本悟／**生物生産学部**－安藤忠男、松田治／**理学部**－近藤勝彦、細谷浩史／**医学部**－杉山政則／**文学部**－岸田裕之

日本語・日本文化研修プログラム

深　見　兼　孝
（広島大学留学生センター・助教授）

広島大学では、昭和60年度より日本語日本文化研修留学生を受け入れているが、昭和62年度より特別経費の交付を受け、「日本語・日本文化研修プログラム」を開始し、現在に至っている。このプログラムは、日本語研修（「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択）、指導教官の下での課題研究、日本語日本文化特別講義・見学プログラムからなる。平成８年度後期、および平成９年度前期の日本語日本文化特別講義・見学プログラムの概要は、次の通りである。

なお、研修生は研修の終わりに研修成果をレポートにまとめ、指導教官と留学生センターに提出することになっている。留学生センターはそれらのレポートをまとめ、レポート集として刊行する。

平成８年度後期

10月11日（金）　開講式・オリエンテーション
10月18日（金）　見学　広島市
10月25日（金）　映画「シコふんじゃった」
11月１日（金）　講義「日本的経営」　西川節行（広島大学総合科学部）
11月７日（木）　講義「現代日本の女性問題」　平田冨美子（ＩＷＡＤ）
11月８日（金）　映画「ミンボーの女」
11月15日（金）　見学　宮島
11月22日（金）　見学　東広島市史跡巡り　飯田米秋（郷土史家）
11月29日（金）　映画「渋滞」
12月６日（金）　スポーツ大会
１月14日（火）　講義「日本の方言１－概論」　高永　茂（広島文化女子短期大学）
１月17日（金）　講義「日本の方言２－沖縄方言」　町　博光（広島大学教育学部）
１月31日（金）　講義「日本近代文学」　相原和邦（広島大学教育学部）
２月６日（木）　講義「日本の伝統芸能」　青木孝夫（広島大学総合科学部）
２月14日（金）　見学　マツダ
２月24日（月）～26日（水）　スキー研修
３月３日（月）、５日（水）、７日（金）　陶芸実習　川原浩二（陶芸家）

平成９年度前期

４月18日（金）　オリエンテーション

５月９日（金）　見学　福山市（対潮桜など）

６月１日（日）　見学　壬生の花田植え

７月４日（金）　見学　筆工場

９月５日（金）　修了式

その他の日本語教育活動

橋　本　敬　司
（広島大学留学生センター・講師）

講演・討論会

1998年１月23、24両日、「マルチメディアと外国語教育」と題して、講演･討論会を行った。過去２度「日本語ＣＡＩ、マルチメディア」をテーマに講演討論会を開催し、コンピュータ導入による教育、学習の重要性と、言語教育ソフトウェアの開発の必要性を痛感した。

今回は、日本語教育だけでなく、外国語教育、英語教育、フランス語教育、中国語教育の世界で、どのようなマルチメディア教材が開発され、どのような教育、学習が行われているか、その成果と現状に関して７件の講演を頂いた。どの講演も有意義かつ刺激的なもので、質疑応答も活発に行われ、実りのある会となった。

また総合討論では、今後は、実際に学習ソフトをどのように共同開発することができるのか、またコンピュータ化する中で教師の存在意義などについて意見の交換が行われた。

詳細は、報告書に譲る。以下に、講演・討論会のプログラムと参加者名簿を掲載する。

プログラム

「マルチメディアと外国語教育」

１月23日（金）10：00～17：00（学校教育学部大会議室）

午前の部　　司会　中川正弘（広島大学留学生センター）

10：00～10：05　開会挨拶　多和田眞一郎　広島大学留学生センター長

10：05～10：15　参加者紹介

10：15～11：00　日本語ＣＡＬＬの開発と課題
水町伊佐男先生（広島大学教育学部）

11：00～11：45　千葉大学外国語センターにおける英語ＣＡＬＬ教育の実践
高橋秀夫先生（千葉大学外国語センター）

11：45～12：30　ＣＡＬＬにおける教師の役割
－協同アプローチのなかでの授業形態が要求するものとは－
澤田肇先生（広島大学総合科学部）

12：30～13：30　食事

午後の部１　　司会　浮田三郎（広島大学留学生センター）

13：30〜14：15　WWW上で実行可能な日本語教材の開発
赤堀侃司先生（東京工業大学教育工学開発センター）

14：15〜15：00　画像の性質の違いが物語読解に与える影響について
池田伸子先生（九州大学留学生センター）

15：00〜15：20　休憩

午後の部２　　司会　深見兼孝（広島大学留学生センター）

15：20〜16：05　漢字熟語ＣＡＩの授業利用について
脇田里子先生（福井大学教育学部）

16：05〜17：00　初級中国語と韓国語の教育方法について
－中国語ＣＡＩと韓国語ＣＡＩ導入と実践－
李奉賢先生・伊津信之介先生（東海大学福岡短期大学）

１月24日（土）10：00〜12：00（教育学部大会議室）

10：00〜11：00　ワークショップ、及び意見交換会

11：00〜12：00　総合討論　司会　平澤洋一先生（城西大学女子短期大学部）

12：00　　閉会挨拶　　多和田眞一郎　広島大学留学生センター長

講演・討論会参加者一覧

アンソニーエドガー・バックハウス	北海道大学留学生センター
上原　聡	東北大学留学生センター
佐藤　勢紀子	東北大学留学生センター
高木　裕子	山形大学教育学部
西村　よしみ	筑波大学留学生センター
日暮　尚子	千葉大学留学生センター
高橋　秀夫	千葉大学外国語センター
深尾　百合子	東京農工大学留学生センター
赤堀　侃司	東京工業大学教育工学開発センター
三浦　香苗	金沢大学留学生センター
峯　正志	金沢大学留学生センター
脇田　里子	福井大学教育学部
神田　紀子	名古屋大学留学生センター
吉村　弓子	豊橋技術科学大学語学センター
加賀美　常美代	三重大学留学生センター
森　眞理子	京都大学留学生センター
岩井　康雄	大阪外国語大学留学生日本語教育センター
岸田　泰浩	大阪外国語大学留学生日本語教育センター
實平　雅夫	神戸大学留学生センター
斉藤　美智子	岡山大学留学生センター
奥村　訓代	高知大学人文学部
飯田　史也	福岡教育大学
池田　伸子	九州大学留学生センター
金城　尚美	琉球大学法文学部
岡部　純子	愛知県立大学文学部
平澤　洋一	城西大学女子短期大学部
保崎　則雄	神奈川大学外国語学部
中川　良雄	京都外国語大学
大川　英明	関西外国語大学
古賀　友也	夙川学院短期大学
伊津　信之助	東海大学福岡短期大学
李　奉賢	東海大学福岡短期大学
水町　伊佐男	広島大学教育学部

澤　田　　肇	広島大学総合科学部
奥　田　邦　男	広島大学教育学部
岩　崎　克　己	広島大学外国語教育研究センター
松　尾　　馨	福山大学
渡　邊　久　美	広島経済大学
村　上　久　恵	広島大学総合科学部
多和田　眞一郎	広島大学留学生センター
浮　田　三　郎	広島大学留学生センター
長谷川　伸　次	広島大学留学生センター
中　川　正　弘	広島大学留学生センター
深　見　兼　孝	広島大学留学生センター
田　村　泰　男	広島大学留学生センター
堀　田　泰　司	広島大学留学生センター
橋　本　敬　司	広島大学留学生センター
田　中　共　子	広島大学留学生センター

留学生指導部門

黒　田　則　博
(広島大学留学生センター・教授)
田　中　共　子
(広島大学留学生センター・助手)
阪　田　泰　和
(広島大学留学生センター・助手)

1．指導部門体制の拡充

昨年度でキャンパス移転計画が終了し、本学の主要キャンパスは広島市と東広島市の二地域に分かれた。当センターは東広島キャンパスに位置しているため、広島市内の霞キャンパス、東千田キャンパスにおいて留学生指導を提供する機会はきわめて限られていた。しかしながら、広島地区には医学部、歯学部、本学二部が存在しており、これらに所属する留学生にも指導の機会を幅広く保障する必要がある。

こうした配慮に基づき、本年度より霞地区においても、医学部の「留学生相談室」を利用して留学生相談を実施している。この相談室には、留学生センターの担当者を配置しており(週２回)、相談活動のみならず情報交換や留学生教育、国際交流の場としても広く機能してきている。

2．相談活動

(1)　留学生相談

昨年度に引き続き、留学生相談員（非常勤）２名を配置して、東広島キャンパスにおいて「留学生相談」を実施した（資料１)。また、前述のように今年度から霞キャンパスにおいても留学生相談室を設け、「留学生相談」を実施している（資料２)。

なお東広島キャンパスの留学生相談員は、記録用紙（資料３）を活用しながら相談内容を記録していき、指導部門教官と対応方針について話し合いを行っており、必要なときは共同で対応にあたることにしている。

これらの「留学生相談」については、日英二カ国語で広報資料を作成している。各学部の掲示板にポスターを掲示するとともに、全留学生に行きわたる数のリーフレットを作成して各事務局に配布を依頼した。また、留学生専門教育教官、留学生センター運営委員をはじめとする「広島大学留学生教育連絡協議会」のメンバーに資料を送付し、周知方依頼した。周囲の理解を得て留学生相談活動の一層の充実を図ることにしている。

(2) 指導部門による相談活動

指導部門の常勤スタッフのオフィスでは、随時各種の相談を受けている。留学生からの相談のみならず、指導教官からの留学生指導上の相談や、職員や日本人学生からの留学や留学生に関する相談、地域の人や自治体からの留学生や国際交流関連の相談も広く受けている。相談は直接面談によるもの、電話によるものいずれも受け付けており、電話などで予約もできる。

日本語力の十分でない新渡日留学生は、特に相談ニーズが高いため、入学時にこうした指導部門による留学生相談活動を的確に知らせるよう配慮している。日本語研修生の研修開始時のオリエンテーションでは、指導部門や担当者の紹介もしている。また、国際交流会館の新入居者にはウエルカムレターを配り、指導部門教官による相談活動があって来談を歓迎していることや、担当者のプロフィールと顔写真、相談の場所や時間が記してある。また来談しやすいように、専用の予約用紙も整えている（資料４）。

全般的に留学生による相談内容としては、情報を求めたり対処の指針を得にくる場合が多く、初期情報の提供および必須情報のゆきわたりの重要性が認識されたため、後述の情報冊子の刊行を行った。オリエンテーションで使うなど、冊子の今後の活用が求められる。

また奨学金やアルバイトなどの経済問題、家族のトラブルや病気についての相談も多く、勉学のみならず留学生の生活全般を支える援助が求められていると認識している。地域の支援活動とも連携をとり、留学生活を広く支える対応が必要であろう。

健康問題に関しては、東広島キャンパスでは保健管理センターの場所を借りて実施しているため、連携がとりやすい恵まれた環境にある。地域の医療施設との連携にも、今後いっそう留意する必要がある。

学内の日本人教職員や日本人学生からの相談は、留学生の受け入れや指導方法、トラブルの対応、留学生との接し方、国際交流活動に関するものなどがある。学外からの相談は、留学生によるトラブルへの対応をはじめ、受け入れ体制の整備、国際交流企画の案や運営についてなど、多岐に渡る。留学生生活を支えるすそ野の広い領域において、コンサルタント的な役回りが求められていると認識している。

今後の予定としては、留学生相談については、このシステムをまだ知らない留学生や指導教官もいる様子であることから、まずは学内における一層の広報活動であり、各研究室、各指導教官にも資料を配布する計画である。また、留学生がなるべく気軽に相談にこられるように、導入の機会となる集いの場を提供したり、相談スペースに隣接して情報コーナーを設置するなど、接触しやすい環境づくりを行う必要がある。

さらに指導部門の存在と機能そのものが、学内外に十分認知されることが活動充実の要件であるため、掲示を整備して担当者のオフィスを分かりやすくしたり、ニューズレターによる情報提供の機会を作るなどして、内外の認知度を高めていく計画である。

今後、留学生センターが地域の国際交流活動の核となって、留学生支援を充実させていく役割を果たすことが、重要な課題である。

2．留学生と日本人のための交流活動

(1) インターナショナル・ティータイム

インターナショナル・ティータイムは、留学生センター設立以来、継続して実施されている国際交流活動である。昨年度は東広島キャンパスにおいてのみ実施されたが、今年度は霞キャンパスでも行われ、今後は定期的に両キャンパスで開催していく予定である。

98年1月現在の時点で、東広島キャンパスで2回、霞キャンパスで2回が、既に実施された(資料5)。今年度中に各キャンパスでさらに1回ずつ、計2回を実施予定である。この行事は、大学の敷地内でオープン形式のお茶会を行うものである。参加費は無料で、学生のみならず学内の関係者、家族も参加できる。参加の際は受付で無地の名札をもらい、自分の名前と国を書き込み、胸につける。国際交流の催しの情報が配られたり、国際交流関係の学生団体の挨拶が行われることもある。こうして自由に出入りし、自由に会話する場が提供されている。

参加者についての調査から(資料6、資料7)、以下のことがことがわかった。東広島キャンパスにおいては、外国人より日本人の参加が多かった。日本人は主に学部生、しかも女子が多い。参加した感想を見ると、留学生は、日本人とあるいは留学生どうしと、知り合う機会ができ、いろいろな話ができて楽しかったという。日本人学生は、留学生と知り合いたいという動機のほかに、英語の練習に来た者も多く、思ったようにしゃべれなかったとか、勉強しなければならないと思ったなどの感想も見られる。学内の英語の授業を担当する教官が、授業で参加を推賞している場合もあった。希望としては、開催頻度をあげてほしいという声が多い。

この行事は、多くの国の人々が集う国際交流の場として機能しており、今後は、英語にのみ集中することなく、バランスのとれた国際交流の意識を養う必要があること、より学生の参加しやすい時間帯により頻繁に開催することなどを考えていかねばならない。予算措置が可能になれば、次年度は開催回数を増加する予定である。また、より小規模の交流の場を常設または週1回など定期的に設置して、より身近な機会とすることも課題として検討している。

(2) 異文化交流セミナー

本セミナーは今回で第5回目となるが、本年度も「異文化交流セミナー」を開催した(資料8)。異文化交流の指導の専門家を招いて、日英二カ国語を使用しつつ、留学生と日本人の交流を促すための教育セッションを実施した。なお、昨年度のセミナーの実施内容につ

いては、本誌中に項を改めて紹介してあるので参照いただきたい。

3．情報提供・助言

(1) 広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド

留学生に対して初期情報・必須情報のゆきわたりが不十分であるため、混乱が生じまた行動に制限が生じているとの認識に基づき、留学生活のための総合情報冊子、「広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド」を新たに刊行した。

本冊子は、広島大学留学生教育連絡協議会および留学生センターとの共同編集・刊行によるものである。このような共同編集による冊子は、先年の「学生チューターQ＆A」冊子に引き続いて2冊目を数えており、学内の期待を受けて活発な活動が続けられている。地域自治体や学内各部局などでは、従来もそれぞれに工夫された冊子が刊行されてきたが、それぞれに関係のある情報に偏りがちであった。本冊子は必要となる情報をなるべく生活全般にわたって網羅することをその編集方針とし、学生生活と地域生活とをともに重要な留学生活のファクターとみなして、この一冊から必要な情報源へ接触できるように、細かく連絡先を記載するなどの便宜をはかった。

現在学内の各留学生に日本語版と英語版一冊ずつが配られたほか、各部局の事務局や、上記協議会委員のもとにも配られている。取材協力を頂いた自治体などの関係機関にも送付した。さらに指導教官や外国人教員など、学内関係者から希望があれば適宜配布している。

今後の課題は、まず他外国語（韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、タイ語など）への翻訳版を作成するとともに、さらに使いやすい冊子とすることである。また、情報が古くなれば利用価値がなくなるため、1－2年度ごとに情報の刷新を行い、改訂版を出していくことを予定している。

(2) 新入留学生歓迎オリエンテーション・バスツアー

新渡日留学生にとっては、新しい国での新奇な土地ははなはだ不案内であり、必要な店や公共施設などの場所がわからなかったり、またそれらの能率的な探し方すら分からない場合が少なくない。留学生が早く地域生活にとけ込み、また親しむように、地域の生活圏と有用な施設を案内する、「新入留学生歓迎オリエンテーション・バスツアー」を企画・実施した(資料9)。今年度はその第一回と第二回が行われたが、今後も半期に一度程度、継続して実施していく予定である。

案内コースは、スーパーマーケットやディスカウントストア、大型店舗、公共図書館や体育館、レジャー施設などである。地図を配って車内から周囲を説明し、何カ所かで下車した。案内役は日本人学生が務めた。学生の国際交流団が企画段階から参加し、先輩留学生も協力した。

アンケートで感想を求めたところ（資料１０）、地域が理解できてよかったとの声が多く、日本人学生との交流も好評であった。本行事は新聞の地方版にも報道された。今後は、いっそう役立つコース選定や提供情報などが課題である。

(3) オリエンテーション活動

日本語研修生など当センターが直接受け入れに関わっている留学生のためには、例年通りいくつかの試みが行われた。その一つは、留学生センター内のワーキンググループとともに、日本人の学生チューターに対する「チューター用資料」を作成し、オリエンテーションを行っていることである。昨年作成した「学生チューターＱ＆Ａ」も、重要な参考資料として活用されている。

もう一つは、新規の日本語研修生や日本語・日本文化研修生、教員研修生などの国際交流会館新入居者を中心とした、新渡日留学生のためのオリエンテーションである。これは新渡日者に必要な生活情報を提供しながら、留学生活の円滑な開始を指導するものである。例えば、キャンパス生活や各施設、留学相談員、あるいはゴミの捨て方、消化器の使い方や交通標識の意味といった安全管理情報などを、スライドで紹介している。また、地域の留学生支援活動や相談センター、入国管理局の所在地、消防車の呼び方、就労と査証などについての重要な情報を紹介している。学生チューター制度、指導教官との連絡、生協や食堂の使い方など、キャンパスライフのアドバイスも行う。保健管理センターの説明や医療保健、救急病院の使い方など、健康管理のための情報には特に留意している。

留学生センターが直接関わる留学生を対象としたオリエンテーションとして、いっそう充実させていくことは当然であるが、今後さらに、留学生センターに限定せずに他部局にも通知して、希望者の留学生を募って合同で実施したり、あるいは全学の留学生を対象とした企画として実施することも検討する必要がある。

(4) 情報の発信

留学生センターではインターネット上にホームページを開設している。この媒体を通じて、企画や行事などの情報も提供される。まだ試験的に実施している面があるが、今後はより活発にこの媒体を活用していく予定である。

また、全国の留学生センターでは、定期的に「ニューズレター」を発行しているところが少なくない。ホームページとはまた異なった情報伝達経路であり、保存や配布がしやすく、広報活動としての有用性も高い。行事の情報伝達やコミュニケーションの機能を兼ねた媒体として活用できるため、当センターとしても他校の例を収集するなどしてその発行を検討している。

4．国際交流ボランティア登録制度

留学生センターでは、「広島大学国際交流ボランティア」登録制度を開設し、学内における留学生と日本人との国際交流の手助けをしてみたい希望者(学部生、大学院生、研究生)を登録しておき、ボランティアとしての活動の機会を提供することを検討している。「広島大学留学生教育連絡協議会」とも協議し、この制度の発足に向けて準備を進めている。

登録されたメンバーには、留学生センターが公式に発行する「ボランティア手帳」を交付し、活動記録を記載していって終了時には活動証書として授与するほか、「ボランティア育成講座」などの教育の機会を設けることも検討している。

5．留学生に関する調査研究：新入生調査

新規に本学に入学してきた留学生については、本年度より、毎年継続的に調査を行うこととしている。本調査は前年度の１１月から本年度の５月に入学した者を対象として、第一回調査を実施した。本調査は一回限りのものではなく、毎年同時期に同内容で実施し、その変遷をたどることを主眼としている。これによって情報の蓄積が行われ、学内事情の的確な把握や、状況の変化していくようすの客観的な指標が得られる。

本調査では、入学の動機や事前情報の集め方、それが十分であったか、現在の問題や今後の予定などを尋ねている。なお調査結果は、現在集計中である。

6．学内外における連携・協力

(1) 学内における連携・協力

昨年度より編成された「広島大学留学生教育連絡協議会」を核にして、学内における連携・協力体制が整えられてきた。前述のように毎年冊子を共同で刊行し、委員は冊子の執筆者を選定する任をまかされたり、自ら執筆したり、配布ルートの一部を構成したりしている。また留学生センターの各種行事の資料を留学生に直接配布する役を担い、留学生相談を周知させることに協力し、さらには新規企画を一緒に案出したり、素案の段階で意見を述べたり具体的な助言を行ったりするなどの活動を展開している。

学内の各部局に委員がいるため、各部局の意見を効率的に集約したり、また当センターの方針を各部局に的確に伝えたりする、双方向性の重要な伝達経路としても機能している。また編集委員になるなど具体的な業務分担の他にも、意見を寄せたり情報提供などの役割もあり、当センターの留学生指導業務に欠かせない機関となっている。

(2) 学外との連携・協力

国立大学留学生センター指導部門の教官を中心に1996年に設立された「国立大学留学生指導連絡協議会」への参加、連携・協力を、昨年に引き続き進めている。当センター指導

部門の専任教官は、全員が同協議会のメンバーとなっており、うち一人は幹事の一員として貢献している。また、「留学生心理相談援助メーリングリスト」に参加している教官もいる。

ＪＩＣＡ研修員の研修の受け入れなどを行っている、広島県の「国際協力センター」に対して、当留学生センター指導部門教官は、教育プログラムの研修の講師を勤めたりするなどして協力している。ほかにも、県立図書館の主催する講演や、東広島市や広島県の教育委員会の研修の講師を勤めるといった協力も行っている。さらに広島市の公民館のプログラムに協力して、各国の文化を広く市民に紹介する活動に関わったり、東広島市の公民館を拠点とした交流活動に携わるなど、地域との結びつきにも積極的に関与している。

ほかにも指導部門教官や留学生相談員は、市役所と留学生との問題を仲介したり、地域の病院の要請に基づいて受診に付き添ったり、留学生支援のボランティアグループに参加するなどして、地域の中で多面的な援助を展開している。

これらのなかには、マスメディアで広く紹介されたものもある。今後は、さらに地域との結びつきを深め、事業などへの協力はもちろんのこと、地域活動を推進するために積極的な役割を果たしていく方向で活動できるよう考えている。そのためには、関係部署との連絡を密にし、共催や後援も増やし、留学生の地域活動への参加を勧奨・支援するとともに、留学生支援グループを設立・支援するなどの協力が必要である。

（資料１）

留学生相談

Advice & Information Service for International Students

実りある留学生活を応援します

We support your fruitful life and study in Japan !

日時 Date & Time ： 毎週 月曜日, 木曜日 12:30～16:30 / Every Monday & Thursday 12:30～16:30

場所 Place ： 西条キャンパス保健管理センター/ Health Service Center in Saijou Campus

担当者 Advisors ： 月曜日 太田啓子/ Monday : Ms. OHTA Keiko

木曜日 佐々木京子/ Thursday : Ms. SASAKI Kyoko

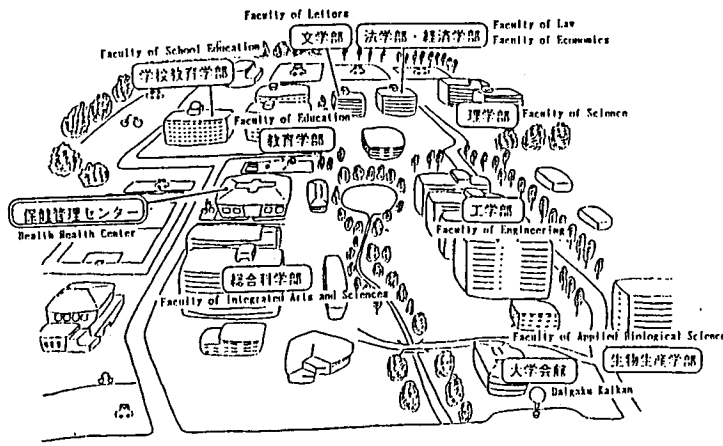
英語で話してもけっこうです。/You may talk to the advisors in English.

日常生活や大学生活に関して, 分からないこと, 聞きたいこと, 困ったこと, 話したいこと, 相談したいことがあれば, いつでも気軽にお立ち寄り下さい。ただ楽しく話をしに来るのも歓迎します。

Please feel free to drop in on the advisors at the Health Service Center, whenever you have questions, difficulties, problems or any other matters on which information / advice is needed in your daily and academic life. You are also welcome just to come over and talk.

Ohta

Sasaki



留学生相談

Advice & Information Service for International Students

— 広島大学留学生センター Institute for International Education —

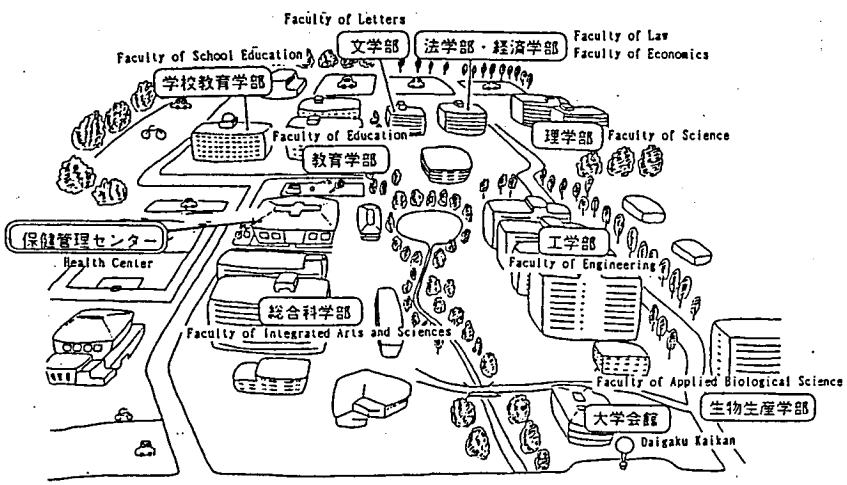
日時 Date & Time : 毎週 月曜日, 木曜日 Every Monday & Thursday / 12:30〜16:30

場所 Place : 西条キャンパス保健管理センター Health Service Center on Saijou Campus

担当者 Advisors : 太田啓子 (月) Ms. OHTA Keiko / Mon. 佐々木京子 (木) Ms. SASAKI Kyoko / Thu.

日常生活や大学生活に関して，分からないこと，聞きたいこと，困ったこと，話したいこと，相談したいことがあれば，いつでも気軽にお立ち寄り下さい。ただ楽しく話をしに来るのも歓迎します。

Please feel free to drop in on the advisors at the Health Service Center, whenever you have questions, difficulties, problems or any other matters on which information / advice is needed in your daily and academic life. You are also welcome just to come over and talk. You may talk to them in English.



1997年度来館日 Service days from April, 1997 to March, 1998 (× … 休室 off service)

April	Mon 月	Thu 木	May	Mon 月	Thu 木	June	Mon 月	Thu 木
		×3			1		2	5
	×7	×10		×5	8		9	12
	×14	×17		12	15		16	19
	21	24		19	22		23	26
	28			26	29		30	

July	Mon 月	Thu 木	August	Mon 月	Thu 木	September	Mon 月	Thu 木
		3		4	7		1	4
	7	10		×11	×14		8	11
	14	17		×18	×20		×15	18
	×21	24		25	28		22	25
	28						29	

October	Mon 月	Thu 木	Nobember	Mon 月	Thu 木	December	Mon 月	Thu 木
		2		×3	6		1	4
	6	9		10	13		8	11
	13	16		17	20		15	18
	20	23		×24	27		22	×25
	27	30					×29	

January	Mon 月	Thu 木	February	Mon 月	Thu 木	March	Mon 月	Thu 木
		×1		2	5		2	5
	×5	×8		9	12		9	12
	12	15		16	19		16	19
	19	22		23	26		23	×26
	26	29					×30	

（資料１）続き

（資料２）

りゅう　がく　せい　そう　だん

留学生相談

Advice & Information Service for International Students

--- 広島大学留学生センター Institute for International Education ---

日時 Date & Time：毎週 月曜日、金曜日 Every Monday & Friday 12:30~16:30

場所 Place：医学部留学生相談室（基礎研究棟２Ｆ）Fundamental Medical buld. 2F

担当者 Advisors：阪田泰和

日常生活や大学生活に関して，分からないこと，聞きたいこと，困ったこと，話したいこと，相談したいことがあれば，いつでも気軽にお立ち寄り下さい。ただ楽しく話をしに来るのも歓迎します。

Please feel free to drop in on the advisors at the International Student Service Center, whenever you have question, difficulties, problems or any other matters on which information / advice is needed in your daily and academic life. You are also welcome just to come over and talk. You may talk to them in English.

1997年度実施日 Service days from April, 1997 to March, 1998（× … 休室 off service）

April	Mon 月	Fri 金	May	Mon 月	Fri 金	June	Mon 月	Fri 金
		×4			2		2	6
	×7	×11		×5	9		9	13
	×14	×18		12	16		16	20
	21	25		19	23		23	27
	28			26	30		30	

July	Mon 月	Fri 金	August	Mon 月	Fri 金	September	Mon 月	Fri 金
		4			1		1	5
	7	11		4	8		8	12
	×14	18		×11	×15		×15	19
	×21	×25		×18	×22		22	26
	28			25	29		29	

October	Mon 月	Fri 金	Nobember	Mon 月	Fri 金	December	Mon 月	Fri 金
		3		×3	7		1	5
	5	10		10	14		8	12
	13	17		17	21		15	19
	20	24		×24	28		22	×26
	27	31					×29	

January	Mon 月	Fri 金	February	Mon 月	Fri 金	March	Mon 月	Fri 金
		×2		2	6		2	6
	×5	×9		9	13		9	13
	12	16		16	20		16	20
	19	23		23	27		23	×27
	26	30					×30	

面接記録（単純ガイダンス用簡略版）　5

氏名：	所属：	来談日：　年　月　日
来談経緯：		
問題の領域：		
主訴：		
所見・背景・解釈：		
ガイダンス内容：		
反応・様子：		
コメント：		

留学生相談記録

ガイダンス記録(1)　6

氏名：	所属：	来談日：　年　月　日
来談経緯：		
問題の領域：		
主訴：		
面接時の様子：		

留学生相談記録

（資料３）

ガイダンス記録(2)　7

ガイダンス内容：

ガイダンスへの反応：

他の処遇：

所見：

留学生相談記録

面接内容記録　(　　)

月／日	内容

留学生相談記録

（資料３）続き

（資料４）

<< 面接申し込み書 Application for Counseling >>

(1)今日の日時 ：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日
Today's date year month day

(2)名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ (3)性別：1.男 2.女 (4)年齢：＿＿＿
Name Sex Male Female Age

(5)学籍：＿＿＿＿＿＿学部
Student status Faculty

1.学部生 Undergraduate
2.研究生 Research students
3.修士課程 Master course
4.博士課程 Doctoral course
5.教員研修 Teacher's training
6.日本語研修 Intrensive Japanese course
7.その他 Others

(6)日本滞在年数：＿＿＿年＿＿＿ヶ月
How long have you stayed in Japan? year month

(7)出身国：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
Country

(8)希望の面接日時：＿＿＿月＿＿＿日＿＿時
When do you hope to see? month day time

(9)連絡先： 1.部屋番号＿＿＿ 2.電話＿＿＿＿＿ (A.自宅 B.研究室内線)
Address/Tel. Room No. Telephone Home Lab. extension

(10)どのような問題を話したいのですか
What kind of problem do you want to talk about?

1.異文化適応、日本文化 Cross-cultural counseling
2.心の問題、性格の悩み、対人関係 Psychological matters
3.体の健康 Health matters
4.なんとなく話したい Personal matters
5.進路、将来の計画 Career
6.日本語、語学 Language
7.研究、勉強 Academic concerns
8.情報問い合わせ、その他 Information, Others

(11)問題の概略 Outline of the problem：

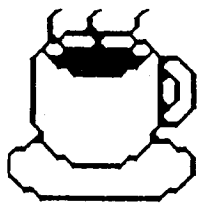
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

広島大学国際交友会(I.A.H.U.)主催、広島大学留学生センター共催

インターナショナル ティータイムの お知らせ

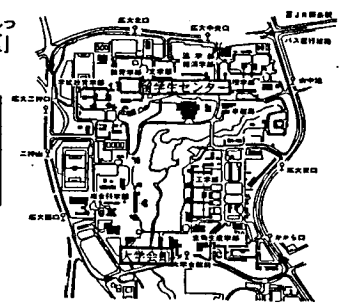


留学生センターでは、留学生と日本人学生あるいは留学生同士が気軽に立ち寄って話し合えるようにと、定期的にインターナショナル・ティータイムを催しています。

どなたでもお気軽にお立寄りください。コーヒー、ティー、サンドイッチなどが出されます。

日時: 2月10日(火曜日) 17:00～19:00

場所: 大学会館1階「大集会室」



参加費や申込み等は
一切いりません。
お気軽にお立寄り下さい。

教職員の方々も大歓迎！

お問い合わせ: 広島大学国際交友会の浜本等子(☎ 0824-21-1533)
広島大学留学生センターの飯田勝和(月、水、木/東広島キャンパス: ☎ 0824-24-6286)
(火、金/霞キャンパス: ☎ 082-257-5950)

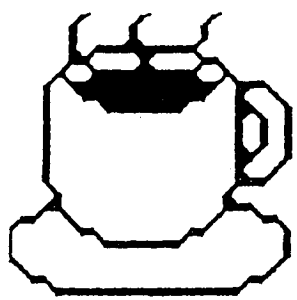
INTERNATIONAL TEATIME

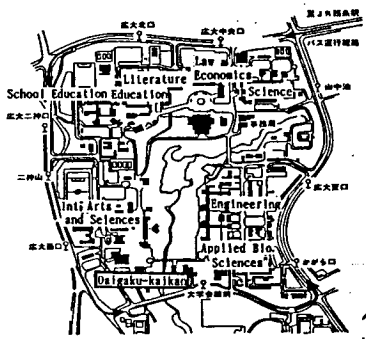
Tuethday, February, 10
17:00～19:00

1st Floor,
Daigaku-Kaikan
'DAishukai-Shitu'

All International students, Japanese students, and Faculty are welcome!

Coffee, Tea, and Snacks will be served!





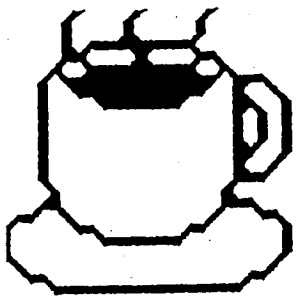
The International Teatime which is sponsored by the Institute for International Education(Ryugakusei-Senta) is a casual, drop-in events to provide an opportunity for both International and Japanese students to meet and exchange ideas.

For further information:
Please contact with Miss Hamamoto(☎: 0824-21-1533) or Prof. Sakata for Higashi-hiroshima Campus(☎: 0824-24-6286) or Kasumi Campus(☎: 082-257-5950)

（資料5）

広島大学国際医学生交流会(M.I.N.C.)主催、広島大学留学生センター共催

インターナショナル ティータイムの お知らせ



留学生センターでは、留学生と日本人学生あるいは留学生同士が気軽に立ち寄って話し合えるようにと、定期的にインターナショナル・ティータイムを催しています。

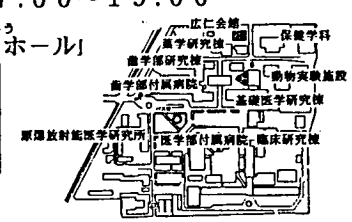
どなたでもお気軽にお立寄りください。コーヒー、ティー、サンドイッチなどが出されます。

日時: 3月13日(金曜日) 17:00〜19:00

場所: 医学部広仁会館1階「中ホール」

参加費や申込み等は
一切いりません。
お気軽にお立寄り下さい。

教職員の方々も大歓迎！



お問い合わせ: 広島大学国際医学生交流会の山本秀喜(☎ 082-233-2877)
広島大学留学生センターの坂田泰和(火、金/霞キャンパス: ☎ 082-257-5950)
(月、水、木/東広島キャンパス: ☎ 0824-24-6286)

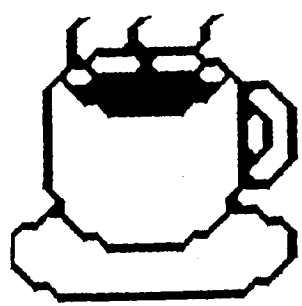
INTERNATIONAL TEATIME

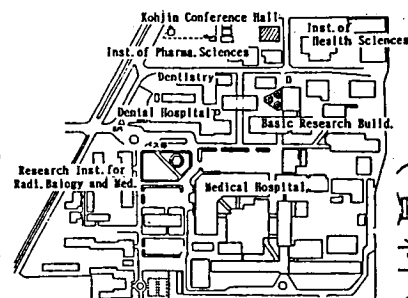
Friday, March, 13
17:00〜19:00

1st Floor,
"Kohjin-Conference-Hall"
School of Medicine

All International students, Japanese students, and Faculty are welcome!

Coffee, Tea, and snacks will be served!





The International Teatime which is sponsored by the Institute for International Education (Ryugakusei-Senta) is a casual, drop-in events to provide an opportunity for both international and Japanese students to meet and exchange ideas.

For further information:
Please contact with Mr. Yamamoto(☎: 082-233-2877) or
Prof. Sakata for Kasumi Campus(☎: 082-257-5950) or
Higashi-hiroshima Campus(☎: 0824-24-6286)

（資料５）続き

（資料６）

インターナショナル・ティータイムアンケート

集計結果（日本人学生）

1．性別　①男 21　②女 44

2．国籍　①日本 65　②日本以外 0

3．身分

(a)学部生：　①1年生 12　②2年生 21　③3年生 9　④4年生 7　⑤その他 0

(b)大学院生：1　①修士課程 6　②博士課程 3

(c)他の学生：　①研究生 0　②日本語研修生 0　③教員研修生 0
④短期留学特別聴講生　0　⑤聴講生 2

(d)教官 1

(f)職員 0

(g)その他（教職員や学生の家族など）2

4．所属

(a)学部：①総合科学部 3　②文学部 13　③教育学部 17　④学校教育学部 3
⑤法学部 2　⑥経済学部 2　⑦理学部 6　⑧医学部 2
⑨歯学部 2　⑩工学部 3　⑪生物生産学部 1

(b)研究科：①文学研究科 5　②教育学研究科 3　③学校教育研究科 0
④社会科学研究科 0　⑤理学研究科 0　⑥医学系研究科 0　⑦歯学研究科 0
⑧工学研究科 2　⑨生物圏科学研究科 0　⑩国際協力研究科 3

(c)他の部局：①留学生センター 1　②その他 0

5．「インターナショナル・ティータイム」を知った方法は？

(a)ポスター：①学部 15　②生協 9　③留学生センター 3　④国際交流会館 0
⑤その他 9（図書館）

(b)チラシ：11 …誰からか（阪田先生、スピーキングの先生、ジム・ロナルド先生、事務）

(c)人から聞いて：①友人 21　②先生 4（ロナルド先生）　③その他 1

(d)その他：3（ＩＡＨＵ）

6．話した人数：0-1　1-2　2-17　3-6　4-5　5-13　6-6　7-4　8-3　10-6

7．参加した目的

＊友達・知り合いを作る、留学生の友達を作る、外国人・留学生と知り合う、外国人との交流を深める、留学生とふれあう機会、友人に会う
＊英語で話したかった、英語を使いたい、英語のレベルを確かめる、英語の練習・上達、英語を話せるようになりたい、中国語で中国人と話す
＊たくさんの人と話をする、外国人・留学生と話をする、いろいろな人と話す
＊留学生のことを知る、外国人の考えを知る、いろいろな国の話を聞く
＊誘われたから
＊飲食を期待して
＊楽しむ、楽しい一時を過ごす、雰囲気を味わう
＊旅行のための情報収集、卒論の資料集め、授業の一環（教員）
＊霞キャンパスではなさそうだから（医1年生）
＊ＩＡＨＵの活動、ＩＡＨＵメンバーとの交流

8．参加した感想

＊たいへん楽しかった・楽しかった、大変だが楽しかった、今年も・今回も楽しかった、あまりこういう機会がないので楽しかった、よかった、おもしろかった、自分はパーティーは苦手だがみな楽しそうで結構、にぎやかな・楽しい雰囲気がよい
＊気を使う必要もなくよかった
＊有意義な時間が過ごせた、いい経験になった
＊初参加だが活気に驚いた、人数が多くて驚いた
＊こんなにたくさん外国人が西条にいると知っていて驚いた、前より外国人のことが分かった、いろいろな国の人と知り合えてよかった、いろいろな人がいるなと思った、会ったことのない国の人に会えて面白かった、今までに会ったことのない人がかなりいた、新しい知り合いができた
＊友人と久しぶりに会えて楽しかった
＊（外国の人との考えを知るという）目的が果たせて満足、タイの留学生とタイの話ができてよかった
＊英語を話す機会が持ててよかった
＊英語がしゃべれない、英語が全然分からない、何を話せばよいのかわからないうえ英語にしようとすると難しくて残念、英語が話せずたいへんだった、初参加で英語ができず緊張
＊英語をもっと勉強しなければ、もっと英語ができればもっとよかった・楽しいだろう、また会う機会があればもっと英語を話せるようになるだろう、語学を勉強する気になる、コミュニケーションがとれず外国語の勉強が必要と感じた
＊日本語が話せるので驚いた
＊あまり話せなかった、たくさんの人と話せなかった、知らない人に声をかけるのは難しい、もっと話し上手にならなければと思った
＊みんなすごい
＊８人話したうち外国人は３人日本人は５人だった
＊次はもっとゆっくり来たい、最後までいられず残念、来た時間が遅くてあまり話せなかったがそれなりに楽しく過ごせた
＊また来たい、次からもぜひ参加したい
＊またこのような機会を作ってほしい、もっと回数を増やしてほしい
＊飲食代はどこから支給されているのか、食事もおいしい
＊ありがとうございました

（資料６）続き

インターナショナル・ティータイムアンケート

集計結果（留学生）

1．性別　①男 25　②女 21
2．国籍　①日本 0　②日本以外 46
3．身分
(a)学部生：1　①1年生 2　②2年生 1　③3年生 5　④4年生 2　⑤その他 3
(b)大学院生　：1　①修士課程 5　②博士課程 3
(c)他の学生　：1　①研究生 4　②日本語研修生 10　③教員研修生 4
④短期留学特別聴講生 6　⑤聴講生 0
(d)教官　：5
(f)職員　：0
(g)その他　（教職員や学生の家族など）1

4．所属
(a)学部　：①総合科学部 2　②文学部 0　③教育学部 17　④学校教育学部 2
⑤法学部　1　⑥経済学部 4　⑦理学部 6　⑧医学部 0
⑨歯学部 0　⑩工学部 1　⑪生物生産学部 1
(b)研究科　：①文学研究科 0　②教育学研究科 2　③学校教育研究科 0
④社会科学研究科 1　⑤理学研究科 2　⑥医学系研究科 0　⑦歯学研究科 0
⑧工学研究科 0　⑨生物圏科学研究科 1　⑩国際協力研究科 6
(c)他の部局　：①留学生センター 7　②その他 1

5．「インターナショナル・ティータイム」を知った方法は？
(a)ポスター：4　①学部 7　②生協　0　③留学生センター 14　④国際交流会館 7
⑤その他 4
(b)チラシ　：4　…誰からか（留学生個人名、堀田先生）
(c)人から聞いて　：　①友人 4　②先生 10　③その他 0
(d)その他　：0

6．話した人数　：3-1　5-5　6-1　7-2　8-2　10-16　15-3　16-1　17-1
20-1　21-1　30-1　たくさん-3

7．参加した目的

＊友達を作る、他国からの新しい友人を得る、新しい出合いと新たな友人づくり、人に会うこと、関係づくりと飲食、インターナショナルな関係づくり、異なる国々から来た人に会う、外国人や日本人の学生と会って仲よくなる
＊友達に会う
＊交際、交流、国際交流、多くの人・より多様な人との交流、他の人たちとの社交
＊コミュニケーション、話をする、会話、インフォーマルなディスカッション、文化間のコミュニケーション
＊学生にパーティー参加を促すため（教職員の家族その他）
＊日本のことを知る、他の国々に関する自分の知識を広げるため、文化や伝統などについて互いに知識を得たり交換したりする
＊日本語の勉強をしながら新しい友達を作る

8．参加した感想
＊楽しかった、とてもうれしかった、よかった・たいへんよかった、いいパーティーだ、とても楽しくて来たことを喜んでいる、来てよかった、ＯＫ
＊みんなと話ができてよかった、日本人のみならずさまざまな国から来た人とも会い話す機会を与えてくれた、このパーティーは他の国々から来た人と出合いその国を知る機会をくれた
＊この会は日本人と外国人の間の友情をよりよいものにできる、留学生のためによいことである、有益だった
＊もっと話がしたい、もっと時間がほしい、このような活動は今後も数多く参加したい
＊１年に２回では少ない、多分２カ月に１度はやるべきではないか、このプログラムないしパーティーが続けて実施されることを望む
＊食事はおいしかった、学部生は４時半まで授業がありその後来たので食べ物が少なくなっていた、イスラム教徒なので鳥の空揚げが食べられなくて残念
＊すごい
＊ありがとう
＊暑かった

・集計メモ
①反応：参加者には楽しく有意義な機会と評価され歓迎されている
料理など会場セッティングはＯＫ
②参加者：日本人学生のほうが多い
日本人学生は学部生（特に低学年）、女子学生の参加が多い
日本人学生は連れ立って参加する傾向がある
留学生は研究室ベースのない者（研修生など）が多い
③動機：留学生は日本人のみならず他の留学生との交際も目的にしている
英語が目的で、自分の語学力に意識がいきがちな日本人学生がめだつ（英語だけを目的にすることは交流にはマイナス面もあるうえ、国際交流の阻害要因としても英語の苦手意識に片寄りすぎ）
④会話人数：留学生は「１０人」（わりとたくさんの意味か）の回答が多く、「たくさん」との回答も見られる（あまり数えていないか）
日本人学生は数少ない相手と会話
④オプション：英語教師も教育的な機会として評価
⑤要望：開催回数の増加が望まれている
個人の都合で参加時間が短い場合もあるが、学部生が参加し易い時間が望ましい
⑥広報：日本人には学部、生協、図書館の一般掲示や事務での不特定個人あて配布が有効（掲示場所を増やせば効果ありかり）
留学生には個別あて配布や個人経由の情報など個別ルート、留学生センター、国際交流会館など留学生に特有の場所での情報提供が有効（一般掲示は見ていない可能性ありか）

インターナショナル・ティータイムアンケート

Questionnaire for International Teatime attendances

[redacted]

集計結果　　回答数 116　単位 人（%）　※Q5のみ複数回答

1．性別　①男 Male 48(41.4)　②女 Female 63(54.3)　NR 5(4.3)

2．国籍　①日本 Japanese 75(64.7)　②日本以外 Non-Japanese 36(31.0)　NR 5(4.3)

3．身分 Status

(a)学部生 Undergaraduate students：

①1年生 First-year 16(13.8)　②2年生 Second-year 10(8.6)

③3年生 Third-year 18(15.5)　④4年生 Fourth-year 12(10.3)　⑤その他 Others 0

(b)大学院生 Graduate students：

①修士課程 Master Course 18(15.5)　②博士課程 Doctor Course 5(4.3)

(c)他の学生 Other Students：

①研究生 Research students 10(8.6)

②日本語研修生 Intensive Japanese Course Students 13(11.2)

③教員研修生 Trainee of Teacher's Training Course 0

④短期留学特別聴講生 HUSA Students 4(3.4)　⑤聴講生 Auditor 1(0.9)

(d)教官 University Academic Staff 1(0.9)

(f)職員 University Officials 1(0.9)

(g)その他 Others（教職員や学生の家族などFamily of University Staff/Students, et al) 3(2.6)　NR 6(5.2)

4．所属 Department

(a)学部 Faculty：

①総合科学部 Integarated Arts and Sciences 9(7.8)　②文学部 Literature 5(4.3)

③教育学部 Education 22(19.0)　④学校教育学部 School Education 5(4.3)

⑤法学部 Law 6(5.2)　⑥経済学部 Economics 2(1.7)　⑦理学部 Science 6(5.2)

⑧医学部 Medicine, and Institute of Pharmaceutical Science 3(2.6)

⑨歯学部 Dentistry 4(3.4)　⑩工学部 Engineering 7(6.0)

⑪生物生産学部 Applied Biological Sciences 8(6.9)

(b)研究科 Graduate School：

①文学研究科 Letters 1(0.9)　②教育学研究科 Education 2(1.7)

③学校教育研究科 School Education 0　④社会科学研究科 Social Science 0

⑤理学研究科 Science 0　⑥医学系研究科 Medical and Pharmaceutical Sciences 0

⑦歯学研究科 Dental Science 0　⑧工学研究科 Engneering 11(9.5)

⑨生物圏科学研究科 Biosphere Sciences 3(2.6)

⑩国際協力研究科 International Development and Cooperation 11(9.5)

(c)他の部局 Others

①留学生センター Institute for International Education 8(6.9)

②その他 Others 0

NR 5(4.3)

5．「インターナショナル・ティータイム」を知った方法は？ Way to know this party.

(a)ポスター Poster：

①学部 Faculty 27(23.3)　②生協 Co-op 26(22.4)

③留学生センター Institute for International Education 14(12.1)

④国際交流会館 International House 14(12.1)　⑤その他 Other place (　) 6(5.2)

(b)チラシ Leaflet：もらった場所／人 From (　)

(c)人から聞いて from a person：

①友人 Friend 22(19.0)　②先生 Academic Staff 6(5.2)

③その他 Other persons (　) 2(1.7)

(d)その他 Other way：(　)

6．話した人数 Number of people whom you have talked with (　) 人 Number

7．参加した目的 Purpose of attending this party

(　)

8．参加した感想 Any comments on this party

(　)

ご協力ありがとうございました

（資料6　続き）

<インターナショナル・ティータイム・アンケート　クロス集計結果>

身分・国籍　クロス集計

身分＼国籍	①日本	②日本以外	計	
①1年生	15	1	16	(a)学部生
②2年生	10	0	10	① 54
③3年生	17	1	18	② 2
④4年生	12	0	12	
⑤その他	0	0	0	
				(b)大学院生
⑥大学院修士課程	11	6	17	① 15
⑦大学院博士課程	4	1	5	② 7
⑧研究生	1	8	9	
⑨日本語研修生	1	12	13	(c)その他の学生
⑩教員研修生	0	0	0	① 3
⑪短期留学特別聴講生	0	4	4	② 24
⑫聴講生	1	0	1	
⑬教官	1	0	1	教官・職員・その他
⑭職員	1	0	1	① 3
⑮その他（家族など）	1	2	3	② 2
	75	35	110	

回答数　116　（国籍 NR　2　身分 NR　1　国籍・身分 NR　3）

所属・国籍　クロス集計

所属＼国籍	①日本	②日本以外	計	
①総合科学部	6	3	9	(a)学部
②文学部	5	1	6	① 59
③教育学部	15	7	22	② 18
④学校教育学部	5	0	5	
⑤法学部	5	1	6	
⑥経済学部	0	2	2	
⑦理学部	4	0	4	
⑧医学部	3	0	3	
⑨歯学部	4	0	4	
⑩工学部	6	2	8	
⑪生物生産学部	6	2	8	
⑫文学研究科	1	0	1	(b)研究科
⑬教育学研究科	1	1	2	①16
⑭学校教育研究科	0	0	0	②10
⑮社会科学研究科	0	0	0	
⑯理学研究科	0	0	0	
⑰医学研究科	0	0	0	
⑱歯学研究科	0	0	0	
⑲工学研究科	9	1	10	
⑳生物圏科学研究科	2	1	3	
21国際協力研究科	3	7	10	
22留学生センター	1	7	8	(c)他の部局
23その他	0	0	0	① 1
				② 7
計	76	35	111	

回答数　116　（うちNR　5）（国籍のみ NR　3　国籍・所属 NR　2）

知った方法・国籍　クロス集計（複数回答あり）

所属＼国籍	①日本	②日本以外	計
(a)ポスター			
①学部	21	5	26
②生協	23	6	29
③留学生センター	4	10	14
④国際交流会館	2	12	14
⑤その他	6	1	7
(b)チラシ			
⑥チラシ	2	6	8
(c)人から聞いて			
⑦友人	14	7	21
⑧先生	5	4	9
⑨その他	2	1	3
(d)その他			
⑩その他	5	0	5
計	84	52	136

回答数　109　(NR 7)

（資料６）続き

インターナショナル・ティータイム　アンケート

1. 国籍(日本人): 24名　① 男(4名)　② 女(20名)

2. 身分:
医学部:
① 医学部・2年生(4名)　② 医学部・5年生(3名)　③ 保健学科・修士課程(3名)
④ 医学部職員(2名)　⑤ 医学部・6年生(1名)　⑥ 医学部・博士課程(1名)
⑦ 歯学部・博士課程(1名)　⑧ 原医研・博士課程(1名)　⑨ 保健学科・3年生(1名)
⑩ 医学部(1名)　⑪ その他(2名)

3. 『インターナショナル・ティータイム』を知った方法は?
(a) ポスター:
① 学部(2名)　② その他(2名)　③ 留学生センター(0名)　④ 生協(0名)
(b) チラシ:
もらった場所/人(0名)
(c) 人から聞いて:
① 先生(7名)　② 友人(5名)　③ その他(MINC: 4名)
(d) その他(0名)

4. 話した人数(　　)人:
① 10人(6名)　② 2人(4名)　③ 4人(3名)　④ 5人(2名)　⑤ 3人(2名)
⑥ 6人(1名)　⑦ 1人(1名)　⑧ 無回答(1名)

5. 参加した目的:
① 留学生の人達と話して見たかった(知り合う)　(6名)
② 国際交流に興味があった　(4名)
③ 友達を作るため(色々な人と会うため)　(3名)
④ バングラデシュの友達と　(1名)
⑤ 興味があった　(1名)
⑥ 視野を拡げようと思って　(1名)
⑦ 付合いで　(1名)
⑧ 無回答　(3名)

6. 参加した感想:
① 楽しかった(面白かった・良かった)　(11名)
② 多くの人と話が出来て良かった　(2名)
③ 留学生と話せて良かった(英語を話せる様になりたい)　(1名)
④ ペルーの人と話せて良かった(スペイン語で)　(1名)
⑤ 途中参加で、時間がもっとあると良かった　(1名)
⑥ 大変盛況でした　(1名)
⑦ 視野が拡がった　(1名)
⑧ 英語の必要性と留学生のレベルの高さに感心した　(1名)
⑨ 無回答　(1名)

インターナショナル・ティータイム　アンケート

1. 国籍(日本人以外): 32名　① 男(18名)　② 女(14名)

2. 身分:
医学部:
① 医学部・博士課程(11名)　② 歯学部・博士課程(8名)　③ 原医研・研究生(2名)
④ 薬学科・博士課程(2名)　⑤ 原医研・客員研究員(2名)　⑥ 薬学科・修士課程(1名)
⑦ 医学部・研究員(1名)　⑧ 歯学部・研究生(1名))　⑨ その他・修士課程(1名)
⑩ 医学部・3年生(1名)　⑪ 医学部・32 生(1名)　⑫ 歯学部・職員(1名)

3. 『インターナショナル・ティータイム』を知った方法は?
(a) ポスター:
① 学部(12名)　② 留学生センター(9名)　③ その他(1名)　④ 生協(0名)
(b) チラシ:　もらった場所/人(4名)
① 留学生センター(2名)　② 日本人学生(2名)　③ 大学関係(1名)　④ 郵便ポスト(1名)
(c) 人から聞いて:
① 友人(2名)　② 先生(1名)　③ その他(2名)
(d) その他(0名)

4. 話した人数(　　)人:
① 10人(8名)　② 5人(4名)　③ 20人(1名)　④ 18人(1名)　⑤ 17人(1名)
⑥ 9人(1名)　⑦ 8人(1名)　⑧ 6人(1名)　⑨ 2人(1名)　⑩ 1人(1名)
⑪ 無回答(11名)

5. 参加した目的:
① 新しい友達を作るため　(11名)
② 国際交流をするため　(8名)
③ 日本人の学生と友達になりたい　(2名)
④ 自己紹介をやった事　(2名)
⑤ 理解のため　(1名)
⑥ ちょっとだけ参加してみたかった　(1名)
⑦ 無回答　(6名)

6. 参加した感想:
① 楽しかった(面白かった・良かった)　(19名)
② 面白くなるための行い方について頑張りましょう　(1名)
③ 日本人が少ない　(1名)
④ 夕食下さいませんか　(1名)
⑤ NO　(1名)
⑥ 無回答　(10名)

（資料７）

インターナショナル・ティータイム（アンケート/外国人留学生）

1.アンケートの回答者(１９人): ① 男性(１３人)　② 女性(６人)

2. 身分の回答者(１７人):
(a) 学部生(１人):
① １年生(１人)
(b) 大学院生(９人):
① 博士課程(８人)　② 修士課程(１人)
(c) 他の学生(７人):
① 研究生(３人)　② 研修生(３人)　③ 研究員(１人)
(d) 教官(１人):
(e) 職員(０人):
(f) その他/教職員や学生の家族など(０人):

3. 所属・学部:
① 歯学部(７人)　② 医学部(６人)　③ 原爆放射能医学研究所(２人)　④ 保健学科(２人)
⑤ 総合薬学科(？人)　⑥ その他(？人)

4.『インターナショナル・ティータイム』を知った方法は？:
(a) ポスター(９人):
① 学部(５人)　② 留学生相談室(１人)　③ その他(１人)　④ 生協(０人)
(b) チラシ(２人):
① 友人から(２人)
(c) 人から聞いて(６人):
① 友人(３人)　② 先生(２人)　③ その他(１人)
(d) その他/MINCの先輩から(１人)

5. 話した人数(回答者/１６人):
① １０人と(５人)　② ９人と(３人)　③ ８人と(２人)　④ ５人と(２人)
⑤ ３人と(２人)　⑥ １１人と(１人)　⑦ 多くの人と(１人)

6. 参加した目的(回答者/１１人):
① 藏キャンパスの留学生や日本人学生と友達になりたかった/話をしてみたかった(１２人)
② 国際交流を楽しみたかった(２人)　③ 知らない事を知りたかった(１人)
④ 彼女を探すため(１人)　⑤ 暇つぶし(１人)

8. 参加した感想:
① とても楽しかった(７人)　② 違った方法でやらなければならない、そうすれば、より多くの人が集まる(２人)　③ 英語力を強化しないと(１人)　④ きれいな人が居たが・・・・(１人)
⑤ MINCのバックアップが好ましいたので良かった(１人)　⑥ 次回は参加したくない(１人)
⑦ このパーティは上手くいっている(１人)　⑧ 人数が少なかったが、２回目なので、和やかな雰囲気で楽しかった(１人)　⑨ 無い(１人)

インターナショナル・ティータイム（アンケート/日本人）

1.アンケートの回答者(１４人): ① 男性(８人)　② 女性(１０人)

2. 身分:
(a) 学部生(１４人):
① ２年生(７人)　② ５年生(２人)　③ ６年生(２人)　④ ３年生(１人)
⑤ ４年生(１人)　⑥ その他(１人)
(b) 大学院生(０人):
(c) 他の学生(０人):
(d) 教官(０人):
(e) 職員(０人):
(f) その他/教職員や学生の家族など(０人):

3. 所属・学部:
① 医学部(１２人)　②保健学科(１人)　③ 総合薬学科(？人)　④ 歯学部(？人)
⑤ 原爆放射能医学研究所(？人)　⑥ その他(MINCの３人＋？人)

4.『インターナショナル・ティータイム』を知った方法は？:
(a) ポスター(４人):
① 学部(３人)　② 留学生相談室(０人)　③ 生協(０人)　④ その他(１人)
(b) チラシ(１人):
(c) 人から聞いて(４人):
① 友人(２人)　② 先生(２人)　③ その他(？人)
(d) その他(MINCの３人＋？人)

5. 話した人数(回答者/１３人):
① １０人と(５人)/　② ５人と(３人)　③ ６人と(２人)　④ ７人と(１人)
⑤ ３人と(１人)　⑥ １人と(１人)

6. 参加した目的(回答者/１１人):
① 留学生と友達になりたかった/話をしてみたかった(９人)
② 国際交流を楽しみたかった(２人)

8. 参加した感想:
① とても楽しかった(９人)　② 英語の勉強になりました(３人)
③ また開いて下さい(２人)　④ 今まで話した事のない人と話せたので良かった(１人)
⑤ 文化について深く立ち入った話が出来てとても良かった(１人)
⑥ 藏キャンパスに沢山の外国の方が居る事を知りました(１人)
⑦ 今回は、人数的に少なかった(１人)

（資料７）続き

（資料８）

広島大学留学生センター主催
第５回異文化交流セミナー

「異文化適応の実際」

日時　平成10年1月29日（木）午前10時～12時
場所　教育学部中会議室
使用言語　日本語および英語
対象　外国人留学生、日本人学生、教職員
参加方法　申込書にて要予約（定員３０名）
費用　無料

講師：日本大学短期大学部講師
櫻坂　英子　先生

過去のセミナー風景

アカルチュレーション acculturation の研究をしておられる先生をお招きします。留学生は、どのように日本という異文化に適応していくのか、その具体的な姿をお話していただきます。今適応しつつある留学生、まわりで援助する日本人、さらに外国への留学を考えている日本人学生の方には、たいへん役に立つお話です。

異文化圏の人との接触に興味のある学内の方々は、ぜひご参加ください。過去のセミナーに来られた方の、再度の参加も歓迎します。

申込方法：申込書を郵送または持参してください（Faxや学内便でも結構です）。送り先：広島大学留学生センター図書室しょしつC３０５（教育学部C棟３階、〒739東広島市鏡山1-1-2）
問い合わせ先：田中 tel/fax:0824-24-6189 E-mail:r740559@.ipc.hiroshima-u.ac.jp
阪田 tel/fax:0824-24-6286 E-mail:ysakata@mcai.med.hiroshima-u.ac.jp

新留学生歓迎オリエンテーション・ツアー

目的 新しく来広した外国人留学生に対して、日本人学生と留学生達の協力を得て、東広島市での生活に必要な情報を提供するとともに学生間の交流をはかる。

内容 大型バス(50人乗り)による東広島市内ツアー

集合場所 5月10日(土曜日)/広島大学国際交流会館前・10:00

実施時間 10:00〜16:00

参加費用 無料

参加留学生数 約40名(先着順)

日本人学生と留学生、広島大学留学生センターの教官(全部で10名位)が案内します。

見学場所

大学施設のほか、スーパーマーケット、カラオケハウス、病院、体育施設など、日常生活に必要な場所を案内します。

飲食 各自で昼食と飲物を持参して下さい。

主催: 広島大学留学生センター、 協力: 広島大学国際交友会(I.A.H.U.)

連絡先: 阪田 泰和[教育学部棟・C-305 ☎(0824)24-6286]

切取り線

なまえ: (Name)	
しょぞく: (Faculty)	☎
じゅうしょ: (Address)	☎

WELCOME AND ORIENTATION CITY TOUR FOR NEW INTERNATIONAL STUDENTS

New international students are most welcome to join the Welcome and Orientation City Tour organized by the Institute for International Education of Hiroshima University in cooperation with the International Association of Hiroshima University.

The tour will provide you with useful information for your life on campus as well as in Higashihiroshima city, while enjoying mutual exchanges with colleague students. Japanese and international students who are familiar with the city will guide you.

1. Date and time: 10 a.m.〜 4 p.m., Saturday, May 10th

2. Meeting place and time: International House of Hiroshima University (Kokusai Koryu Kaikan) 10 a.m.
A chartered bus (maximum 50 persons) will be waiting for you.

3. Fee: Free of charge

4. No. of participants: The first 40 applicants will be acceptable.
Altogether some ten Japanese and international students and staff of the Institute for International Education will accompany you.

5. Rout of the tour: university facilities, sports facilities, super markets, hospitals, karaoke houses, etc.
A detailed program will be announced on that day.

6. Lunch: Lunch will be on your own.

7. Contact person: Prof. Sakata (Institute for International Education; Rome C 305, Faculty of Education Building, Tel: 24-6286)

(Detach here)
APPLICATION FORM
NAME:
FACULTY: Tel:
ADDRESS: Tel:

（資料 9）

（資料１０）

新留学生歓迎オリエンテーション・ツアー アンケート　1997年5月10日実施

1．『新留学生歓迎オリエンテーション・ツアー』を知った方法は ？

（a）ポスター：

① 学部：0名（ 0.0%）　② 生協：0名（ 0.0%）　③ 留学生センター：7名(58.3%)
④ 国際交流会館：4名(33.3%)　⑤ その他：0名（ 0.0%）　(6) 無回答：1名（ 8.3%）

（b）チラシ(もらった場所)：

(1) 留学生センター：1名（ 8.3%）　(2) 友人：1名（ 8.3%）
(3) 丸印のみ：2名(16.7%)　(4) 無回答：8名(66.7%)

（c）人から聞いて：

① 友達：3名(25.0%)　② 先生：3名(25.0%)　③ その他：0名（ 0.0%）
(4) 無回答：6名(50.0%)

（d）その他：

(1) Resistered Form：1名（ 8.3%）　(2) 無回答：11名(91.7%)

2．話をした人数：

(1) 沢山の人：1名（ 8.3%）　(2) 12~3人：2名(16.7%)　(3) 11人：1名（ 8.3%）
(4) 10人：2名(16.7%)　(5) 7人：2名(16.7%)　(6) 6人：1名（ 8.3%）
(7) 5人：1名（ 8.3%）　(8) 4人：1名（ 8.3%）　(9) 2人：1名（ 8.3%）
(10) 無回答：0名（ 0.0%）

3．参加した目的：

(1) 生活をしている場所(買物、施設)を知りたい：8名(66.7%)
(2) 他の留学生と知り合いたい：2名(16.7%)
(3) 友達を造りたい：2名(16.7%)
(4) 無回答：0名（ 0.0%）

4．参加した感想：

(1) 大変良い・素晴らしかった・満足：11名(91.7%)
(2) 良くなかった：1名（ 8.3%）
(3) 無回答：1名（ 8.3%）

5．また、参加したいと思いますか？：

(1) はい：10名(83.3%)　(2) いいえ：0名（ 0.0%）　(3) 無回答：2名(16.7%)

6-1．参加申込み者中の参加者数：16/31名(51.6%)

6-2．参加者中のアンケート提出者数：12/16名(75.0%)

異文化間交流セミナー

－ 1997年１月24日・カルチャーアシミレータをやってみよう －

櫻　坂　英　子
（日本大学短期大学部心理学科・講師）

コミュニケーションのディコーディング

日本は、高コンテクスト文化（あいまいな言語表現、不明確な意思表示）で、社会全体に濃密な「つながり」を保持し、非言語的なコミュニケーションが発達している(Hall, 1987）と言われている。外国人が日本語を学習する場合に難しい点は、人間関係(MacDougal,1985）であり、言語そのものの問題ではなく、日本人の人間関係のあり方や思考方法、文化の問題（相手の気持ちや感情を思いやって表現する等）を理解する方が難しい。これらは、留学生が日本人と親しくなれない原因のひとつとして指摘されている。日本人同士なら話さなくてもわかる事柄でも、留学生に対しては、説明不足であり、日常生活、学校生活における適応困難を招き、留学生側からのネガティブな日本人観も生まれる。

文化摩擦は異なった文化の交流、接触により生じる諸問題を内包する。内在文化（特定の文化集団に共通した事物の捉え方）を理解できないとき、文化摩擦が起きる。文化背景の違いにより、現実を異なった価値観や社会規範で解釈し、葛藤の原因となるような体験が生じると、その原因をシステム（きまり、ルール、習慣）ではなく、「心の問題」に帰属させる傾向がある。留学生側は、日本人を「冷たい」、「閉鎖的」、「集団主義」、「あいまい」というように評価しがちであり、日本について概してステレオタイプ的である。日本人側では、留学生をお客さん扱いし、「教えてあげる存在」（援助的な受け入れ）と認識し、双方が互いに学びあう関係には至っていない。

Cultural Assimilator

異文化移行期の不適応を取り除く教育方法として、Triandis ら(1987)は、文化を学ぶプログラム学習である Culture Assimilator を開発し、成果を収めている。

Culture Assimilator は、社会状況や他者の行動を理解する目的で作成され、他文化に内在する基本的な考え方や態度、役割期待などを提示し、文化によって規定された視点に気づかせ、相手の視点から、理由づけが出来るように合理的な学習を促進する教材である。異文化間で相互作用の問題を含む具体的な事例が提示される。学習者は誤解、不調和がなぜ起きたのか、３つの選択肢より選ぶ。それに対して、すぐにフィードバックが与えられ、正しい理由、間違った理由が説明される。これを繰り返すことによって、合理的に文化学

習を進めていく。

今日、マルチメディアの発達により、語学教育にも積極的にコンピューターが利用されているばかりでなく、文字・画像・音声を合成した画面の呈示とコンピューターインタラクティブ機能を利用した新しいマルチメディアコースウエアの作成が容易となった。このようなコースウエアの導入により、異文化移行時の基本的日常行動パターン学習を促進することが可能である。既存の Culture Assimilator は、書籍教材で、コンピューターコースウエアは開発されていない。本報告ではアジア系留学生がより合理的に日本文化を学習する媒介として、従来よりもビジュアルに異文化の状況を呈示できるマルチメディアによる Cultural Assimilator の可能性を探索した。

マルチメディアによる Cultural Assimilator 作成のプロセス

埼玉県内の私立4年制・短期大学に在籍するアジア系留学生43名、平均年齢25.3歳（男28.3歳，女24.1歳)、滞日期間は3カ月～5年6カ月（平均滞日期間2年5カ月）を対象に、日本での生活で体験した文化の違いによる困難な体験や状況の自由記述を求めた。本研究では、これらの報告と奥山(1996)によるコミュニケーションギャップを学習する教材の事例を参考にして、被験者が困難な体験として報告したなかで、最も頻度の高かった対人接触を中心に6事例を作成した。事例の3種類の解釈は、奥山(1996)と金山(1983)に

対人接触に関する6事例と解釈

事例	解釈
1　誘いかけ	1日本的なあいまいな態度・表現
2　何を食べるか	2非日本人的な態度・表現
3　物の貸し借り	（強い自己主張，はっきりした態度）
4　おみあげと謙遜表現	3留学生が誤解しやすい応対
5　おみあげとお礼	（日本人は表面的だ）
6　肯定・否定が不明確な状況	

事例とその解釈の例

事例1　留学生が日本人の友人を映画に誘うとあいまいな返事をしたが、「行かない」とは答えていない。当日、映画に行くつもりで話しかけると、日本人は困った顔をしている。

解釈1　もっと積極的に誘うべきだった。
　　2　はっきり返事をしないのは「NO」。
　　3　映画に興味があるような嘘をついた。

準拠している。これらは、すべて日本語で表記されているが、あらかじめ6名のアジア系留学生に日本語の難易度を評価を行っている。

6事例の写真撮影（1事例4写真）後、写真をスキャナ（エプソンG－T8500）でマッキントッシュに取り込み、マクロメディアオーサリングツールにより画面を作成した。まず、日本人のあいまいな態度・表現を反映した事例と説明、人物の会話を静止画像でCRT上に呈示する。呈示された事例の解釈と人物の会話3カテゴリーを並立して静止画像で呈示し、被験者自身の考えに近いものを選択し、ボタンをマウスでクリックする。次に正解と事例の解釈、日本の習慣、あいまいな表現の意味について説明が呈示される。被験者は、「次へ」のボタンをクリックして次の事例に進む。以上のような、操作を6事例それぞれについて行う。被験者が回答した結果は、あらかじめ設定されたファイルの中に記録される。

マルチメディアコースウエアの使用者による評価

浅井(1995)により構成されたコンピューターに対する調査44項目を参考に14項目（知識，操作，学習）を作成。Culturer Assimilator 試行前に調査を行い、さらに試行終了後、同一の質問紙を実施した。施行前と終了後では統計的に有意な差が認められなかったが、試行前に比較して、試行後の評価は肯定的であった。Cultural Assimilator の試作段階であり、マルチメディアテキストに静止画像を追加したものである。動画・音声などを取り入れ、現実場面にいっそう近い Culture Assimilator 作成を計画している。

異文化移行時の適応の特徴と留学生と受け入れ側の日本人の双方が持つ諸問題を概観した後、異文化移行期の不適応を取り除く合理的な教育方法として、Culture Assimilator を本セミナーでは紹介した。OHP上にマルチメディアテキストから出力した静止画像を提示し、参加者全員で Culture Assimilator を体験した。

その後、異文化移行時の適応や Culture Assimilator について、話しあい、セミナー参加者自身の体験等に基づいて留学生が日本で生活を行う上での困難な状況、理解の難しい状況を想定して、Culture Assimilator の事例を作成し、報告しあった。

本報告では、実際にコンピューターを使用して Culture Assimilator を紹介できなかったが、異文化移行時の適応を促進させる教材としての目的、有効性は理解されたと思う。

教育交流部門・広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム

堀　田　泰　司
（広島大学留学生センター・講師）

広島大学短期交換留学プログラムは、短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議（カルコン）においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながらカナダ、オーストラリア、マレーシア、その他ヨーロッパ諸国の大学（短期学生交流協定校）に在籍する学部学生で、本学に一学期若しくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするもので、特別に「英語による授業科目」を開設することでもって、本学で教育を受ける機会を提供し、もって学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、総合科学と言う観点から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚の養成と海外留学を活性化することが出来るようなプログラムを提供する。

HUSA プログラムは、その実施委員会によって統轄されており、委員会は、合計20名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営に関しては、留学生センターの教育交流部門並びに留学生課がその主たる業務を担っている。また、受け入れ学生に対する授業科目は、各学部が独自に開講している。

Ⅰ．受け入れプログラムの概要

① 受け入れ機関：一学期又は、一学年

② 募集人員：30名

③ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する。

④ 応募資格：(1) アメリカ合衆国を主としたアジア・太平洋地域の大学の学部学生であること

(2) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生

(3) 原則として自国の大学の正規課程３年次の学部学生

(4) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者

(5) 非英語圏から応募する学生にあっては英語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者

⑤ 選考方法：別途設置する選考委員会において書類選考する。

⑥ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで総括しながら、それぞれ専

門に応じて本学の指導教官を定め、各学部で「特別聴講学生」広島大学学生交流規程）として受け入れる。

⑦　授業科等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）

⑧　カリキュラム：97年度に開設された授業科目は、３つの形態から構成されている。

「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された英語による授業であり、「常設科目」は、すでに総合科学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えた授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第３に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設している日本語・日本事情の科目である。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統轄は各学部で行われている。以下が97年度に開設された授業科目一覧表である。

1997年度（97年10月～98年７月）授業科目一覧

1．特設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
アジアの哲学と宗教	2単位	秋学期	文学部
比較教育学	3単位	秋学期	教育学部
カリキュラム開発論	2単位	秋学期	教育学部
日本のスポーツと文化	3単位	秋学期	教育学部
日本の文化と教育	2単位	秋学期	教育学部
学校教育の心理学的研究	2単位	秋学期	学校教育学部
戦後日本の経済発展とシステムの変遷	2単位	秋学期	経済学科
国家財政システム	2単位	秋学期	経済学科
日本の製造業界における技術開発と発展	2単位	秋学期	工学部
応用微生物学	2単位	秋学期	生物生産学部
微生物生態学研究法	2単位	秋学期	生物生産学部
野外学習Ｂ	2単位	秋学期	理学部
特別課題研究	4単位	秋・春学期	
仏教学	2単位	春学期	文学部
日本の心理学研究	2単位	春学期	教育学部
高等教育論	2単位	春学期	教育学部
開発教育論	2単位	春学期	教育学部
カリキュラム開発論	2単位	春学期	教育学部
日本の家庭生活	2単位	春学期	教育学部
日本の企業	2単位	春学期	法学部
日本の金融システムと経済発展	2単位	春学期	経済学部
産業政策の経済的分析	2単位	春学期	経済学部
生命科学概論	2単位	春学期	理学部
野外実習Ａ	2単位	春学期	理学部
生物工学概論	2単位	春学期	工学部
平和と人権	2単位	春学期	HUSAプログラム実施委員会

2．常設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
現代演劇映画論	2単位	秋学期	総合科学部
社会・人類言語学演習	2単位	秋学期	総合科学部
児童文学論演習	2単位	秋学期	総合科学部
女性学特別演習	3単位	秋学期	総合科学部
関数解析	2単位	秋学期	総合科学部
計算機インターフェース論	2単位	秋学期	総合科学部
環境化学	2単位	秋学期	総合科学部
地球科学の実習	2単位	秋学期	学校教育学部
電気工学IV	2単位	秋学期	学校教育学部
分析論実習C	2単位	秋学期	理学部
統計学実習A	2単位	秋学期	理学部
物理実験	2単位	秋学期	理学部
物理演習B I	2単位	秋学期	理学部
現代演劇・映画論演習	2単位	春学期	総合科学部
比較文化論	2単位	春学期	総合科学部
言語応用論演習	2単位	春学期	総合科学部
言語思想論特別講義	3単位	春学期	総合科学部
現代詩論特別演習	3単位	春学期	総合科学部
量子力学演習	2単位	春学期	総合科学部
生体防御学	2単位	春学期	総合科学部
環境科学野外実習	2単位	春学期	総合科学部
数学	2単位	春学期	学校教育学部
美術（モデリング）	2単位	春学期	学校教育学部
音楽概論	2単位	春学期	学校教育学部
調理実習	2単位	春学期	学校教育学部
経済学2	2単位	春学期	学校教育学部
コミュニケーション概論	2単位	春学期	学校教育学部
代数学A	2単位	春学期	理学部
幾何学A	2単位	春学期	理学部
物理実験	2単位	春学期	理学部
物理演習B II	2単位	春学期	理学部

3．日本語関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語・日本事情A	2単位	春学期	総合科学部
日本語・日本事情B	2単位	秋学期	総合科学部
日本語初級I	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級II	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級III	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級IV	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級V	2単位	秋学期	留学生センター
日本語中級I	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級II	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級III	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級IV	2単位	秋・春学期	留学生センター

日本語中級Ⅴ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅵ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅶ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅷ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級Ⅸ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級Ⅰ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級Ⅱ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級Ⅲ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級Ⅳ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級Ⅴ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情Ⅰ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情Ⅱ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情Ⅲ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情Ⅳ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情Ⅴ	2単位	秋・春学期	留学生センター

⑨ 受け入れ体制の整備：(1)学生宿舎（日本人・留学生混住型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(2)日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(3)入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼しないで、機関保証（広島大学）とする。

II．1997年度 HUSA プログラム受け入れ状況

97年度は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、マレーシア、スウェーデン、オランダの8大学から23名の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が1年間の滞在を希望しており、男女別で見ると男子学生14名、女子学生9名であった。

派遣国	大学名	期間	人数（男・女）
アメリカ	フロリダ州立大学	1年	1名（1：0）
	メリーランド大学	1年	3名（2：1）
	ミネソタ大学	1年	5名（4：1）
カナダ	カルガリー大学	1年	3名（1：2）
オーストラリア	ニューイングランド大学	1年	3名（0：3）
マレーシア	マラヤ大学	1年	3名（1：2）
スウェーデン	リンシューピン大学	1年	2名（2：0）
オランダ	アムステルダム大学	1年	2名（2：0）
		半年	1名（1：0）
合計			23名（14：9）

所属学部別

所属学部	人数（男：女）
総合科学部	5名（3：2）
文学部	2名（2：0）
教育学部	5名（2：3）
学校教育学部	2名（0：2）
経済学部	4名（3：1）
法学部	1名（1：0）
理学部	1名（0：1）
工学部	3名（3：0）
合計	23名（14：9）

III. 1997年度 HUSA プログラム受け入れ活動

① 選考：1997年度募集要項は、昨年1～2月中に派遣大学へ配布され、3～4月に各大学から参加希望者が推薦された。そして、5月には、本学の選考委員会によって正式決定された。

② 渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションを兼ねて広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き」を各学生に送付した。この手引は、前年度の短期交換留学生によって作成されたため、その利用価値は高かったようである。また、学生の個人的な質問等には、電子メールとファックスを活用し、個々のケースに対応した。

③ チューターオリエンテーション：日本人学生チューターは、留学生の渡日以前に決まっていたので、学生チューターに対し事前のオリエンテーションを行った。特に、留学生到着後の第1週目の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動について説明を行った。

④ プログラムオリエンテーション：短期留学生到着後の第1週目に HUSA プログラムのオリエンテーションを実施委員会委員長を始めその他委員の参加の下に開催した。具体的には、委員長挨拶、カリキュラムの説明、大学施設の案内、電子メールの申し込み等が行われた。

⑤ 見学研修：留学生センターが実施している見学研修に参加する形で短期留学生にも広島近郊の史跡見学、企業訪問等を行っている。また、短期プログラム用特設科目の指導教官が授業の一環として独自に様々な見学旅行を実施している。

⑥ 授業履修状況：秋学期の履修状況は、概ね全員が10～12単位、授業科目数にして、6～9教科授業を履修している。多くの学生は自分の専門分野以外の教科にも積極的に参加している。特に、日本語の履修の比率の多さは、昨年に続き顕著に現われている。留学生センターは短期留学生のニーズに合った補講授業や大幅なカリキュラム改正に積極的に取り組んできている。

Ⅳ. 1997、98年度 HUSA 留学生派遣計画

本校の短期留学生派遣は、1996年度には既に2回実施されており、また、1998年度派遣留学生の選考も既に終えている。例年、12月24日に応募者の選考試験を行い、翌年の1～2月中には実施委員会で選考、3～4月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集に関する資料の一部を抜粋したものである。

広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム
派遣学生の募集について

1　制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は、複数学期教育を受けて単位を習得し、研究指導を受ける制度で、1996年度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、マレーシア等アジア、太平洋諸国の大学から主として学部学生を短期交換留学生といて招致し、平成9年度後期から本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており1997年度について、別紙の通り募集する。

2　出願書類：

①　申請書
②　留学計画
③　TOEFL 成績表（500点以上が望ましい）
④　学業成績証明書

3　出願書類提出締め切り：1997年11月25日（火）

4　選考：

応募条件を満たしている者に対し、留学計画、TOEFL 成績、学業成績、面接（口述）試験の結果に基づき選考する。第二希望大学まで選考の対象とする。

5　面接（口述）試験日：1997年12月24日（火）

6　決定：1998年１月ごろ協定校へ推薦し、最終決定は、協定校の決定によるものとする。

7　学生の身分：派遣先大学は、短期学生交流協定大学であるので、授業料、検定料、入学料等は通常通り広島大学に収め、派遣先大学では、支払う必要がない。但し、奨学金の支給はなく、生活費は自己負担になる。

V．1997、98年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

1997年８－９月の短期交換留学生派遣に関しては、既に15名の応募者の内９名推薦し、アメリカ、カナダの４大学へ派遣している。また、オーストラリアのニューイングランド大学へは、1998年２月に５名を派遣している。さらに、1998年度７－８月の派遣に関しては、既に10名の派遣留学生を選考している。今回は、カナダ、アメリカに加え、マレーシアのマラヤ大学やスウェーデンのリンシューピン大学へも派遣が決定している。

VI．HUSA 留学生派遣事業の活動状況

本学の学生に海外留学の機会を増やすことが、広島大学の短期交換留学プログラムの重要な任務の一つであることから、1997年度にいくつかの活動を行った。第１の活動は、海外留学に際し必要な現地校の事情を網羅したガイドブックの作成である。これは、97年度に協定校から派遣されてきた留学生が、母校に関する知識と経験を基に作成したものである。第２の活動は、派遣前のオリエンテーションの開催で、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供した。広島大学と協定校の学生交流はその後も続き、現在は、協定校においても様々な交流活動が行われている。最後に、海外留学の機会をより多くの学生に認識してもらうため、97年の５、６、10月の３回に渡り短期交換留学プログラムの説明会を開催した。

VII．その他の活動

①「短期交換留学のための日米シンポジウム」の開催：

1996年９月25日、国立大学協会、米国大学協会、文部省の協力の下、広島大学が「短期交換留学のための日米シンポジウム」を開催した。開催の趣旨は、「日米間を巣とする学部学生の短期交換留学を推進するため、１）このプロジェクトの意義を認識し、２）これまでの日米合同会議で提起された問題を検討し、３）短期交換留学プログラムを実施中の大学と計画中の大学間の情報・意見交換を目的とする。」ということであった。また、プログラムの日程は、下記の通りである。

日程

9：30－9：40	広島大学長挨拶
9：40－10：00	文部省代表者講演
10：00－10：25	国立大学協会代表者講演
10：25－10：40	休憩
10：40－11：05	AAC&U（米国大学協会）代表者講演
11：05－11：30	討論
11：30－13：30	懇親会
13：30－14：20	第1回討論会「短期プログラムの目的と意義について：誰のための、何のためのプログラムか？」
14：20－14：40	休憩
14：40－15：30	第2回討論会「短期プログラムの教育内容について：カリキュラム・教授法の改善、単位互換問題等」
15：30－16：00	第3回討論会「日米の協力体制の可能性と今後の課題」

② 「留学生に聞く短期交換留学プログラムの現状と課題」の開催

1998年2月12日に、全国の国立大学の短期交換留学生代表並びに担当教官の参加の下、留学生センターは講演・討論会「留学生に聞く短期交換留学プログラムの現状と課題」を開催した。今回の講演・討論会は、これまで行われてきた短期プログラムの担当官、関係者による討論会とは違い学生代表者から直接意見を聞くという新たなる試みであった。以下が、プログラムの日程である。

日程

9：30－10：00	受け付け開始
10：00－10：10	多和田眞一郎留学生センター長挨拶 長谷川伸次短期プログラムディレクター挨拶
10：10－10：30	参加者自己紹介
10：30－12：00	テーマ1「協定校の送り出し体勢」 （司会：堀田泰司、広島大学留学生センター）
12：00－2：00	懇親会
2：00－3：30	テーマ2「日本の生活環境への適応」 （司会：太田浩司先生、名古屋大学留学生センター）
3：30－4：00	休憩
4：00－5：30	テーマ3「日本の大学教育と留学目的の達成」 （司会：ピーター・フィルコラ先生、北海道大学留学生センター）
5：30－6：00	総括（司会：長谷川伸次、広島大学留学生センター）